YKK

日本語

This is YKK 2019

YKK精神

「善の巡環」

他人の利益を図らずして自らの繁栄はない

企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、
その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものです。
YKKの創業者吉田忠雄は、事業を進めるにあたり、
その点について最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。
それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、
常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、
それがお得意様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。
このような考え方を「善の巡環」と称し、
常に事業活動の基本としてまいりました。
私たちはこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

Contents〈目次〉

YKK精神／経営理念／コアバリュー……1
トップメッセージ……3

▶ハイライト
〈事業〉……5
・YKKグループの事業活動
・ものづくりを追求し、社会課題の解決に貢献
〈環境〉……9
・環境ビジョン2050の策定
・環境ビジョン2050の達成に向けて
〈コミュニティ〉……13
・地域社会の中のYKKグループ
・持続可能な社会の実現を黒部から考える
〈人〉……17
・森林経営
・経営理念の浸透を目指して

▶YKKグループの事業活動
YKKグループ第5次中期経営計画……21
YKKグループ過去11年分の主要財務データ……23
ファスニング事業……25
AP事業……29
工機技術本部……33
研究開発活動……36

▶YKKグループの経営基盤
〈対談〉持続可能な社会への貢献を目指して……37
（三菱地所株式会社名誉顧問／一般社団法人Spirit of SHINISE協会会長 福澤 武 氏×YKK／YKK AP取締役 吉田 忠裕）

YKK精神に基づく経営基盤……39
YKK精神に基づく企業の社会的責任……41
各極の取り組み……43
北中米／南米／EMEA（ヨーロッパ・中東・アフリカ）／中国／アジア／日本

YKKグループ概要……49

経営理念

「更なるCORPORATE VALUEを求めて」

YKKは、更なるCORPORATE VALUE（企業価値）を求めて、
7つの分野に新たなQUALITY（質）を追求します。

YKKグループは、お客様に喜ばれ、社会に評価され、
社員が誇りと喜びを持って働ける会社でありたいと考えています。
そのための手段として、商品、技術、経営の質を高めていきます。
そして、これらを実践するにあたって常に根底にあるのが「公正」であり、
これを価値基準として経営判断を行っていきます。

コアバリュー

失敗しても成功せよ
／信じて任せる

品質に
こだわり続ける

一点の
曇りなき信用

編集方針

「This is YKK 2019」は、多くのステークホルダーの皆様に、YKKグループの経営や事業活動の概要をわかりやすくご理解いただくためのコミュニケーションツールとして発行しています。経営理念、中期経営計画や財務情報ハイライトなどの情報、そして2018年度における事業活動を通じた社会・環境課題解決への取り組みを中心に掲載しています。

対象範囲

YKKグループ全社
（YKK株式会社、
YKK AP株式会社、他）

報告期間

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）
※一部、期間外の活動も含みます。

発行年月

2019年6月

お問い合わせ先

YKK株式会社
経営企画室　広報グループ
東京都千代田区神田和泉町1
TEL：03（3864）2064
FAX：03（3864）2050
黒部事業所　環境・安全グループ
富山県黒部市吉田200
TEL：0765（54）8165
FAX：0765（54）8149

YKKグループウェブサイト

https://www.ykk.co.jp
YKKグループの財務・非財務に関するより詳しい情報を掲載しています。

この用紙は森林認証されたパルプを使用しています。
印刷：YKK六甲株式会社
（YKKグループ特例子会社）

トップメッセージ

YKK精神「善の巡環」に基づき、社会とともに発展を続けてきたYKKグループ。持続可能な社会の構築に向けてグループが目指す方向性について、YKKおよびYKK AP両社長のメッセージをご紹介します。

ものづくりの可能性を追求し
お客様、そして社会に「歓喜」される価値を

YKK株式会社
代表取締役社長
大谷 裕明

事業を通じて「どのように持続可能な社会に貢献すべきか」を考える時、われわれが常に立ち返るのが、YKK精神「善の巡環」です。YKK創業者吉田忠雄は、事業を展開していく中で、「他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」という考えに至りました。発明や創意工夫をこらすことでよりよい価値を創造してお客様へ提供し、それによって得た利益を広く社会に還元していく── 生涯にわたって情熱を注いだものづくりを通して、こうしたお客様と社会とともに繁栄する道を探求し続けました。この想いを、世界72カ国／地域で事業を展開する今も、われわれの中でしっかりと受け継いでいます。

第5次中期経営計画（2017年度～2020年度）において、ファスニング事業は中期事業方針として「更なる量的成長を目指して── より良いものを、より安く、より速く──」を掲げ、2020年度ファスナー販売数量128.8億本という目標に挑戦しています。2018年度の販売数量は100億本を達成し、大きな節目を迎えることができました。しかし、数値はあくまで事業のバロメーターであり、私たちが本当の意味で目指すものは、中期経営ビジョンで掲げた「Technology Oriented Value Creation（技術に裏付けられた価値創造）」であり、持てる技術を駆使してお客様の満足を超える価値、すなわち、お客様が「歓喜」する（Customer Joy）ほどの価値を届けることです。そのためにも、“よりシンプルに、よりストレスフリーに”という観点から、お客様が感じるわずらわしさやストレスの解消につながる発想を大切にしています。同時に、社員一人ひとりにとっても、「全員が経営者」という考えのもと、喜びと誇りをもって働ける会社でありたいと思います。

世の中に目をむけると、持続可能な社会実現の妨げとなり得るさまざまな問題がひしめいています。このような課題への取り組みは、企業に共通するミッションであり、企業市民としての責務でもあります。特に、ものづくりの会社として取り組むべき環境問題に対しては、国内外のグループ社員の想いもふまえて「YKKグループ環境ビジョン2050」としてまとめました。

私たちはこれからもYKK精神「善の巡環」に基づく企業活動にまい進することで、持続可能な社会に貢献してまいります。

事業を通じて健康で快適な暮らしに貢献
より良い社会の実現へ

YKK APは、さまざまな建築用プロダクツを通して暮らしと都市空間に先進の快適性をお届けするとともに、人々の暮らしを豊かにする持続可能な社会の実現に貢献できる企業を目指しています。

第5次中期経営計画においては「高付加価値化と需要創造によるAP事業の持続的成長」という事業方針のもと、窓の高断熱化や商品力をベースにした販売強化など、事業・業務領域ごとに重点を定め取り組んでいます。前半2年を振り返り、それぞれが順調だという手応えを得ています。

一方で、YKK APを取り巻く事業環境は、新設住宅着工戸数の減少や職人不足、省エネや健康・快適などへの生活者のニーズの高まりなど、大きく変化を続けています。私たちはYKK精神である「善の巡環」を価値観の基盤として、事業を通じてこれら社会課題の解決に寄与しています。

私たちの主要ドメインである窓をはじめとする開口部は、建物の中で最も熱損失の大きい部位です。省エネに対する要求が高まる中、窓の高断熱化は冷暖房エネルギーの削減につながります。そのため、私たちは高い断熱性能をもつ「樹脂窓」の開発や普及啓発を進めています。樹脂窓の普及率は欧米で7割前後であるのに対して、日本では2割にも達していません。私たちは樹脂窓のリーディングカンパニーとして、勉強会やショールームでの体感型展示など、さまざまな啓発活動を行っています。

さらに樹脂窓は健康や快適な暮らしに大きく貢献します。断熱性能の低い住宅では、室内の温度差が引き起こすヒートショックなどのリスクが増え、特に高齢者は注意が必要です。また、結露はダニの増殖やカビの原因となり、アレルギー疾患につながる恐れがあります。断熱性能の高い樹脂窓の普及は、これらのリスクを軽減し、高齢化社会における住宅内事故の減少にも貢献できると言えるでしょう。

幸いなことに、私たちはこのように省エネや環境貢献を商品にできる企業です。とりわけ国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」が広まるにつれて、世界に貢献しているという誇りを、社員が抱けるようになってきています。社員が面白さを感じ、喜びを見出してこそ、取り組みが本物になる。私たちはこれからも、ものづくりに対して愚直に、技術に対して真面目に取り組み続けることで、YKK APだからこそできる社会課題の解決に貢献してまいります。

YKK AP株式会社
代表取締役社長
堀　秀充

ＹＫＫグループの事業活動

グローバル事業経営

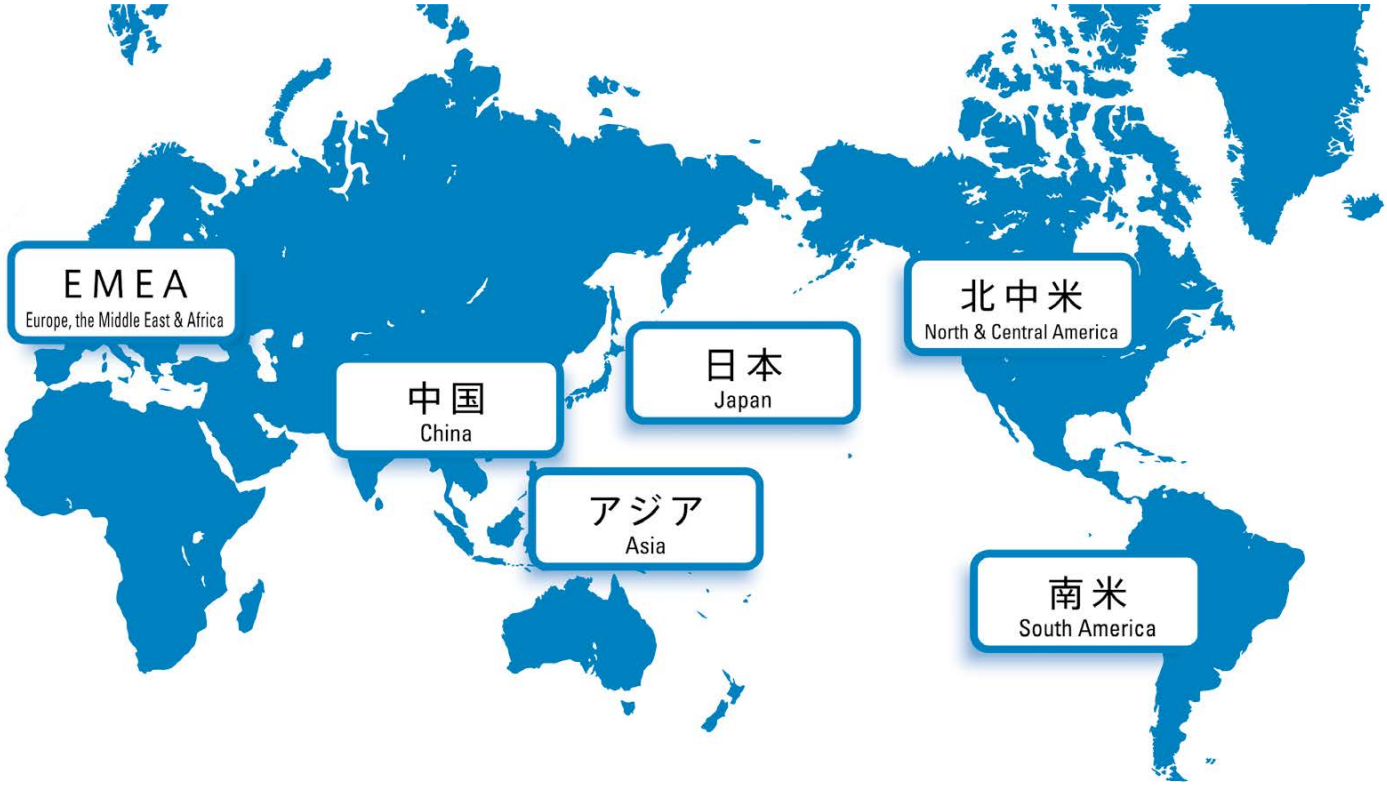
ファスニング事業・AP事業を中核とした
グローバル事業経営体制

ＹＫＫグループの経営体制は、中核となるファスニング事業とAP事業、
そして両事業の一貫生産を支える工機、
3者によるグローバル事業経営と世界6極による地域経営を基本としています。

世界6極経営体制

世界6極経営体制で事業展開

YKKグループは、世界6極による地域経営を基本とし、
現在72カ国／地域で事業活動を行っています。
その経営体制は、世界の事業エリアを北中米、南米、
EMEA（ヨーロッパ・中東・アフリカをカバーするエリア）、
中国、アジア、そして日本の6つのブロックに分け、
地域ごとの特色を活かしながら
各社が主体となってグローバル事業経営を展開しています。



ものづくりを追求し、社会課題の解決に貢献

GOOD DESIGN AWARD 2018
GOLD AWARD

ファスニング事業

開閉しやすく、安全な衣服をファスナーで実現

小さな子どもや高齢者にも使いやすく、ユニバーサルでかつ安全・安心を実現したYKKの新しいファスナー「QuickFree®」。開発の背景には、日常の中の不便や危険を解消したいという生活者としての想いがありました。

▶「QuickFree®」

小さな子どもでも一人で着脱できる高い操作性と、安全・安心を追求したファスナー。従来機能を進化させ、新たな可能性を示したことが高く評価され、2018年度の「キッズデザイン賞」で最優秀賞の「内閣総理大臣賞」を受賞。また同年の「グッドデザイン賞」において「グッドデザイン金賞」にも選ばれました。

安全・安心のためにファスナーができること

ファスナーの開閉作業は、小さな子どもや高齢者にとっては難しい場合があります。また、子ども服のフードは、雨や雪の際などには大変便利な半面、遊んでいる最中に遊具やドアノブに引っ掛かる危険性があります。フードの利便性はそのままに、安全で、しかも簡単な操作で開閉できるファスナーができないかと考えたのが、開発のきっかけでした。

衣服に新しい価値をプラスする

「QuickFree®」は、スライダーの形状を変えて視認性を向上させ、ピン（蝶棒）を受ける開口部の面積を通常のファスナーの3.2倍に拡大。これによりさし間違いを軽減し、操作性が大きく改善しました。さらに左右に一定加重が加わるとスライダーが「パチッ」と外れてファスナーが開く解放機能を装備。子どもの衣服が遊具に引っ掛かった際など体への負担を減らすとともに事故防止も期待でき、使う人の安全・安心を実現したものです。

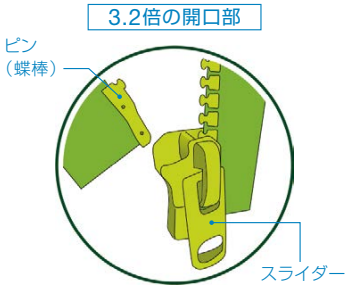
今後、スポーツアパレルやアウトドア用品など、さまざまな分野で新しい価値を提供していくことも期待されます。

ものづくりを支える技術力

ファスナーの製造には、高い精度が求められます。「一貫生産」を実現しているYKKは、材料や製造設備の開発から自社で行い、より良いものづくりに力を注いでいます。この独自の技術力を強みに、世界中の工場で「世界共通品質」を実現しています。

お客様の「歓喜」の声を広げる

YKKでは、ものづくりを通して、生活の中にある不便やわずらわしさの解消に取り組んでいます。ファスナーは一部の部材ですが、使う人に新しい体験や価値を提供し、人々のより良い暮らしに貢献することができます。これからも「よりシンプルに、よりストレスフリーに」の発想を大切にしながら、お客様の期待を超える商品で世界中に喜びを広げていきます。



YKKグループは創業以来、発明・工夫・改善でより良い商品をお客様に提供することに努めてきました。
中期経営ビジョン「Technology Oriented Value Creation（技術に裏付けられた価値創造）」を具現化し、
社会課題の解決に向けた新しい価値創造に挑戦する姿を、代表的な商品事例を通してご紹介します。

AP事業

樹脂窓で日本の住まいをより良くする

日本の住宅の断熱性能を「窓」から高め、ローエネルギーで健康・快適な暮らしの実現に貢献することを目指して、YKK APは「APW」樹脂窓シリーズの新たな可能性と提供価値を探求しながら、開発と普及に注力しています。

▶「APW」樹脂窓シリーズ

高い断熱性能と先進の機能、洗練されたデザインで高品質をお届けするYKK APのブランド。高性能・美しさ・快適さを追求し、2009年の販売開始以来、多くの方々に健康で快適な暮らしを提供してきました。これまで数々の賞を受け、その新たな価値が高く評価されています。

高性能トリプルガラスで、世界トップクラスの断熱性能を実現した「APW430」

健康で快適な住まいの鍵は「窓」

住まいの温熱環境は、健康に影響を与えます。例えば、室内の温度差が引き起こすヒートショックや夏の室内での熱中症。断熱性能の低い住宅ほどリスクが高まり、特に高齢者にとっては命の危険にもつながります。また窓周辺で発生した結露やカビが、アレルギー疾患の原因となる恐れもあります。健康で快適な住まいを実現するには、一年を通して熱の出入りが最も多い「窓」の高断熱化が鍵となります。

「樹脂窓のチカラ」で住まいを変える

「APW」樹脂窓シリーズは、断熱性能世界トップクラスの「APW430」をはじめ、シリーズを通して高い断熱性能を実現。室内の温度差を緩和して、夏涼しく冬暖かい、健康・快適な住まいを実現しています。また消費エネルギーの抑制や、建物の資産価値向上にも寄与。この「樹脂窓のチカラ」を普及させるべく、機能性とともにデザイン性も追求し、幅広いユーザーの期待に応えています。

社会に価値あるものづくり

YKK APでは、材料や製造設備から商品に至るまで自社で開発・生産する「一貫生産」により、より次元の高いものづくりを実現。日本初の「窓」の専用工場である埼玉窓工場をはじめ、六甲窓工場や東北製造所窓工場など、日本各地に製造拠点を置いています。また商品開発時には、生活者目線の品質検証「生活者検証」を実施。誰でも使いやすく安全な商品を追求し続けています。

樹脂窓で快適な暮らしを広めたい

世界では樹脂窓がスタンダードになりつつある中、日本での普及率はわずか17%※に留まっています。YKK APは日本の住まいをより良くするために、今後も性能と品質にこだわった樹脂窓の開発と普及に挑戦していきます。2019年3月には高性能トリプルガラス樹脂窓「APW430」の引違い窓を発売し、ラインアップを更に拡充。生産能力の強化にも取り組み、日本の窓の樹脂窓化を推進していきます。

※出典：平成29年住宅用建材使用状況調査、(一社)日本サッシ協会（2017）

「APW430」断面

As Awarded by The Chicago Athenaeum: Museum of Architecture and Design and The European Centre for Architecture Art Design and Urban Studies

GOOD DESIGN

環境配慮に優れ、先進的な技術を有する商品や企業に与えられる国際的な賞「GREEN GOOD DESIGN AWARD 2019」受賞

YKK AP埼玉窓工場

環境ビジョン2050の策定

地球規模での環境分野への貢献が求められる中、グループ全体で更に高いレベルの環境経営を実現するために、2019年4月、環境への取り組みの長期的な方向性を示す「YKKグループ環境ビジョン2050」を策定しました。

YKKグループ環境ビジョン2050

YKKグループは、「善の巡環」の精神のもと、未来の豊かな自然と生活を実現するため、社会とともに全従業員で新たな価値創造にチャレンジします。

人と自然の未来をひらく

Towards a brighter future for nature and humanity

環境ビジョンの策定プロセス

社員参加型のビジョンとするために

本ビジョンは、若手社員や世界6極の社員の意見を広く収集・反映して策定しました。将来世代であり今後のYKKグループの未来を担う若手社員が参加するワークショップを複数回実施し、取り組むべき課題を特定。世界6極全ての社員を対象に実施したアンケート結果から、共感できる取り組みやキーワードを検討しました。このように、今後活動の主体となる社員の考えや意見を反映したことが本ビジョンの特徴です。

今後に向けて

現在推進している「YKKグループ第5次中期環境経営方針」に基づく活動（2020年度まで）を着実に遂行しながらも、2021年度から遂行する本ビジョンに基づく活動の準備も同時並行で進めていきます。具体的には、グループ各社・各事業に本ビジョンを更にブレイクダウンした環境方針と実効性のある目標値の設定、落とし込みを図っていきます。

さらに浸透活動も重要と考え、経営トップからの発信、プロモーション動画の制作やポスターの掲示、社内報の活用等、社内浸透活動を継続的に実施し、長期的視点に立った意思決定の促進、社員の環境マインド醸成を図っていきます。加えて、社外への情報発信についても、広報ツールの作成や展示会での開示、販促ツール等への導入なども検討し、幅広いステークホルダーに対してYKKグループの環境活動への理解を積極的に促していきます。

社員ワークショップの様子

▼策定プロセスと今後の展開

- 経営層との意見交換（2018年6月）
- 社員によるワークショップおよびアンケートの実施（2018年10～11月）
- YKK環境政策委員会（2019年1月）
- 経営層確認・ビジョン策定（2019年4月）
- 各社・各事業で環境方針・目標値の設定（～2020年度）
- 環境方針・目標の遂行（2021年度～）

気候変動への対応

地球規模で起こっている気候の変動は、地球上に住むあらゆる生物にとって重要な問題となっています。この問題に対応することは社会の構成員としての責務であるととらえ、CO_2をはじめとした温室効果ガスの削減や気候変動への適応に取り組みます。

水の持続的利用

水は生命維持やあらゆる産業にとって欠かせない資源である一方、国や地域によって利用できる量や質が大きく変化します。社会との共存共栄を目指すわれわれにとって、地域と共に水資源を持続的に利用することは重要な課題であるととらえ、取水量の削減や排水の環境負荷低減等に取り組みます。

資源の活用

ファスナーや窓をはじめとした商品を作るメーカーとして、その材料となる各種の資源は不可欠な存在です。将来世代にわたり、われわれの商品を安定して提供していくためにも、限りある資源を最大限有効に活用するとともに、ライフサイクルを通じて発生する廃棄物を資源とする活動に取り組みます。

自然との共生

大気の安定や水の浄化、食料の提供、レクリエーションの場など、自然は豊かな生活に欠かせない存在です。将来世代にわたり、豊かな生活を残すため、自然保護や環境負荷の低減等に取り組みます。

環境ビジョン2050の達成に向けて

気候変動への対応

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

YKK APの2030年度に向けた温室効果ガス削減目標が国際的イニシアチブ「SBT」認定を取得

YKK APでは、「商品」と「ものづくり」を基軸とした環境政策を推進しています。「ものづくり」における気候変動リスク対応として新たに設定した2030年度までの温室効果ガス削減目標が、パリ協定の「2℃目標」を達成するための科学的根拠に基づいた目標であると認められ、2019年1月、国際的団体である「SBTイニシアチブ」から認定を受けました。

今後はこの目標の達成に向け、持続的な省エネ投資や運用改善に加え、自然エネルギーの活用、グリーン調達などを通じてライフサイクル全体で環境負荷を最小化しながら、持続可能な社会に向けた新しい価値の創造を目指して取り組んでいきます。

「商品」と「ものづくり」の両面から環境政策を推進し、YKK APが掲げる「事業活動におけるライフサイクル全体を通して“環境負荷ゼロ”を実現」することが2050年のあるべき姿です。2030年度までに温室効果ガス排出量30%削減（2013年度比）を目指し、製造・営業拠点で実施している省エネ事例の水平展開を推進します。

YKK AP　安全環境管理部　環境管理室　茂角 広章

資源の活用

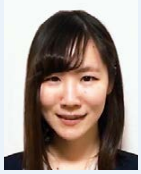
「GreenRise™」（植物由来ファスナー）

植物由来のサステナブルな商品の開発

サステナブルな商品へのニーズや期待の高まりを受けて、YKKでは「商品を通じた持続可能な社会への貢献」をコンセプトにした新しいファスナー「GreenRise™」を開発し、2019年4月に販売を開始しました。「GreenRise™」は、サトウキビ廃糖蜜（食べられない部分）を利用した植物由来原料を30%使用しています。従来品と比べて化石燃料の使用量を削減し、製品のライフサイクル全体でのCO_2排出量を減らせるだけでなく、砂糖生産過程での副産物※を有効活用することで環境負荷の低減にもつながります。持続可能な社会への貢献を軸に、環境に優しい新たな商品をこれからも追求していきます。

※原材料原産国の法律に基づく

世界がサステナブルな社会の実現に向けて進展する中、商品においてもサステナビリティが重要なコンセプトとなっています。これからもリサイクルや分解性のファスナーなどの環境負荷を低減する商品の開発と販促を通じて、資源の有効活用に貢献していきます。



YKK　ファスニング事業本部　ファスナー事業部　アパレル戦略推進部　商品戦略室　森平 陽子（左）
YKK　ファスニング事業本部　ファスナー事業部　商品開発部　VF･テープ･デザイン開発室　青島 弘美（右）

「YKKグループ環境ビジョン2050」は、YKKグループ世界全域で社員一丸となって取り組むものです。
ここでは、ビジョンにおける4つのテーマに関する特徴的な取り組みと、
ビジョン達成に向けたYKKグループ社員からのメッセージをご紹介します。

水の持続的利用

導入装置の前で、管理するメンバーとともに

水の循環利用 ―YKK韓国社 工場での取り組み―

水は暮らしや企業活動に欠かせない資源ですが、世界の中には水の需給がひっ迫している地域もあり深刻な水不足が懸念されています。ファスニング商品を製造するYKK韓国社では、製造工程から出る廃水を浄化し、再び工業用水として再生するリサイクル設備（ROシステム）を導入し、工場における水の循環利用を推進しています。これにより、水資源の使用量を抑えるだけでなく工場外への排水も削減でき、環境汚染物質の発生を最小限にとどめることができます。2007年の導入以来、水の再利用率は年々向上し、2018年度は34%となりました。今後更に拡大を目指し、持続可能なものづくりに取り組んでいきます。

ROシステムの利用は、上水道と地下水の使用量を減らすとともに、工場から出る排水量を減らし、YKK韓国社全体での排水削減にもつながります。今後も水の再利用を拡大して環境汚染の予防に取り組み、将来的には「排水の放流ゼロ」の実現を目指していきます。

YKK韓国社　施設環境安全管理　韓 廣熙

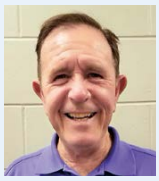
自然との共生

ダブリン工場の周辺に広がる豊かな自然

企業活動と自然環境の共生を図る

創業者吉田忠雄は「森の中の工場」を理想とし、自然と共生する企業グループを目指してきました。YKK APアメリカ社のダブリン工場（米国・ジョージア州）は、約83万平方メートルもの広大な湿地の中にありますが、その敷地の約6割は七面鳥やシカなどの野生生物が生息する豊かな森林です。工場設立時に周辺の湿地も取得し、自然を大切に守りながら操業を続けてきました。当時、米国で最も厳しい排水基準を上回る性能の排水処理設備を備えるなど、周辺環境への配慮も現在に至るまで徹底しています。今後も森とともにある企業として、自然との共生を図っていきます。

環境ビジョン2050の達成に向けて、引き続き、地域コミュニティの中で環境への責任を積極的に果たしていきます。また内部監査の改善に重点を置いて環境マネジメントシステム（ISO14001）を展開し、環境コンプライアンスの強化にも継続して取り組んでいきます。



YKK APアメリカ社　Environmental Department　Chip Wilson

WEB 環境活動の詳細は https://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/csr/eco_management.html をご覧ください。

共に考え、共に歩む
地域社会の中のＹＫＫグループ

ＹＫＫグループは、地域ごとの特色を活かした事業活動で各地域の発展に寄与するとともに、
コミュニティの一員として地域社会の課題解決にも貢献していくことを目指しています。

グローバル事業経営体制
72カ国／地域
108社
（2019年3月31日現在）

初の海外進出
（ニュージーランド）
1959年

「ＹＫＫ Group Tree Planting Day」
これまでの植樹本数
50,000本以上

“土地っ子になれ”―事業展開における「善の巡環」―

ＹＫＫグループでは創業以来、国内外を問わず事業を展開する地域とのつながりを大切にしています。

創業者吉田忠雄は、こう語っていました。

“文字通り、地球の裏表にＹＫＫができ、それが善の巡環となって広がっているわけだ。

私はこうした展開のなかで、皆に常々話していることは、アメリカならばアメリカのＹＫＫ、ドイツならドイツのＹＫＫであって、決して日本のものではないということだ。

常に地域社会に貢献する、その国の経済に貢献するという風にやらなければ、決して愛されないだろう。”

『吉田忠雄全集Ⅱ 経営思想』より

また、海外で働く心得として、「その国の風俗、習慣、伝統というものを尊重して自分はこの国に生まれたんだと思え」とも説いていました。私たちが今も大切にしている「土地っ子になれ」の考えです。

ＹＫＫグループは、ＹＫＫ精神「善の巡環」に基づき、「土地っ子になれ」の思いで、地域とともに繁栄することを常に念頭に置き、共に発展することに努めています。

創業者吉田忠雄と地域の子どもたち

富山県黒部市でのコミュニティダイアログの歩み

YKKグループは、ステークホルダーの皆様と意見交換するステークホルダー・ダイアログを2010年より毎年開催しています。YKKグループが「技術の総本山」と位置付ける富山県黒部市で、地域住民や行政をはじめとするさまざまなステークホルダーと継続的な対話を行ってきました。いただいたご意見やご指摘は真摯に受け止め対応することで、地域の課題解決やYKKグループの企業活動向上にも活かされてきました。

各回の主なテーマ

第1回（2010年6月）
持続可能な社会の構築へ向けてYKKグループに期待すること

第2回（2011年4月）
YKKグループと自然界との共生

第3回（2012年3月）
YKKグループのものづくりに期待すること

第4回（2013年4月）
YKKグループにおける社会的課題の解決

第5回（2014年4月）
地域社会の中のYKKグループに期待すること

第6回（2015年5月）
共に考える地域社会の中でのYKKグループ

第7回（2016年4月）
低炭素型まちづくりを考える

第8回（2017年4月）
自動車に頼らない低炭素型まちづくりを考える

第9回（2018年4月）
自然との共生を踏まえたYKKグループ施設の活用

▼いただいた主なご意見とYKKグループの対応（2010～2018年度）

いただいた主なご意見・ご指摘	YKKグループの主な対応
環境への貢献と負荷低減	
黒部川扇状地全体を見据えた地下水利用調査の実施	• 行政・大学との協働による地下水調査 • 地下水熱利用空調システムの導入 • 2020年までの環境計画を推進し、2050年以降の長期構想の策定もすすめる
化石燃料に頼らない、新エネルギーへの対応	
低炭素社会への対応	
ものづくり	
低炭素・循環型社会、社会ニーズへの対応	• 高い断熱性能を実現した「APW」樹脂窓シリーズやリサイクルファスナーなど、環境に貢献する商品を発売 • 黒部古御堂工場の再構築、工機技術本部ファスナー専用機械部品工場の建設 • 社外表彰制度の活用など、積極的なコミュニケーションを推進
工場における環境対策の更なる推進	
ものづくりの成果の「見える化」	
地域社会への参画	
「ふるさとの森」とビオトープの活用（地域交流、次世代教育など）	• ふるさとの森・水辺のコンセプトを策定し、5年後に向けた整備プランを策定 • 地域の方々とともに、防風林としてクロマツの植樹活動を実施 • 保育所などへ社員が出向き、環境教育を実施 • センターパークを教育観光の基点として、校外学習の受け入れや体験型学習を実施
ふるさとの森を「みんなで森をつくる心」を育てる場に	
各種出張授業の展開	
産業観光だけでなく、教育観光へ	
黒部市のまちづくり	
地域の資源を活かすシステムづくりと、企業と市民の協働	• 自然エネルギーを活用したパッシブデザインによるローエネルギーの「まちづくり・住まいづくり」への取り組み • 黒部市の社会インフラとYKKグループ社員インフラの効率的融合
「黒部らしい低炭素ライフスタイル」の実現	
自家用車に頼らない低炭素型のコンパクトシティ実現を推進	

黒部川扇状地

持続可能な社会の実現を黒部から考える

10回目の節目を迎えたYKKグループのステークホルダー・ダイアログ。富山県黒部市にある黒部事業所にステークホルダーの皆様と社員が集まり、これまでのダイアログを振り返るとともに、今回新たに策定した「YKKグループ環境ビジョン2050」をテーマに意見交換を行いました。

（2019年4月25日実施）

第10回ステークホルダー・ダイアログを開催

〈参加者の皆様〉左から

- 環境団体：石倉 祐樹 氏
（公益財団法人とやま環境財団 協働交流課長）
- 取引先：平野 明 氏
（平野工務店株式会社 代表取締役）
- 自治体：牧野 恵美 氏
（黒部市市民生活部市民環境課 主幹）
- 消費者：稲垣 里佳 氏
（富山県地球温暖化防止活動推進員）
- ファシリテーター：九里 徳泰 氏
- 海外留学生：辺 冠臻 氏
（富山県立大学大学院工学研究科環境工学専攻）
- ナチュラリスト：松木 紀久代 氏
（黒部峡谷ナチュラリスト研究会 副会長）
- 学生：竹腰 優太 氏
（富山県立大学工学部環境・社会基盤工学科）
- 地域住民：村田 洋子 氏
（村椿自治振興会 副会長）

対話の積み重ねが多様な分野で実を結ぶ

ダイアログの前半では、過去9回の内容を総括しました。初回からファシリテーターを務める九里氏は、「回を重ねるごとに、テーマや課題が予想以上に広がってきた」と振り返りました。YKKグループへの期待からはじまった対話は、その時々の社会動向などをふまえながら、地域の課題解決や低炭素型まちづくりなど大きなテーマに発展。10年にわたる継続的な対話の積み重ねで、持続可能な社会の実現へ向け、地域とともに着実に歩みを進めてきました。

環境ビジョン2050の達成に向け、持続可能な社会への貢献を考える

YKKグループでは、長期的な環境への取り組みの方向性を示した「YKKグループ環境ビジョン2050」を新たに策定しました。ダイアログの後半では、この環境ビジョンの実現に向けて、YKKグループが地域社会といかに協働していくか、また実現したい未来の姿やその方法について意見を出し合うワークショップを行いました。（環境ビジョン2050の詳細は、P9-10をご覧ください）

黒部ならではの発想で、共に実現したい未来を描く

「YKKグループ環境ビジョン2050」の4つのテーマにおいて、2050年にありたい黒部の姿とその実現方法をグループごとに考え、意見を出し合いました。

気候変動への対応

山・川・海がある黒部は地形の変化に富む地域です。その特性を活かして、地熱や川の水力、海流のエネルギー、太陽光などでつくった電力を集約し、黒部地域で使用する「電力の地産地消」を実現させてはどうでしょうか。グリッドを地方単位で考えることで、コンパクトシティーの実現にもつながると思います。

資源の活用

ライフサイクルの視点で商品をデザインすることがますます重要になると考えます。例えば、リサイクルの必要がないほど完璧な「ノーリサイクル商品」の開発や、素材別の分別・リサイクル技術や仕組みを向上させるなど、商品の消費・廃棄の先まで考えたものづくりをYKKグループには実現してほしいです。

水の持続的利用

水資源を持続的に利用するためには、①取水量の削減（そもそも水を使わない、あるいは代替技術）、②排水による環境負荷低減（水のリサイクル）、③水資源の保全（地下水を涵養する森づくりなど）の3つの観点で考えることができます。それぞれで実現する技術をYKKグループで開発し、水を使わず、排出しない「ゼロウォーターファクトリー」を黒部で実現できれば素晴らしいと思います。

自然との共生

YKKグループが力を入れている森づくりのほかにも、黒部には、ダムの土砂堆積や海岸浸食など、取り組むべき環境問題があります。ステークホルダーとともに画期的な手法を考え、解決に取り組んでいただくことを期待します。また、北陸新幹線で東京・大阪とつながる立地と美しい自然環境を活かし、黒部で環境サミットを開催するなど、環境対策の発信地として盛り上がっていけたらと思います。

参加者と社員がグループに分かれて意見を出し合い、アイデアを発表

九里氏のご挨拶

ダイアログの歩みを振り返る

ステークホルダー・ダイアログを通して

「ステークホルダー・ダイアログとは、企業の影響を直接・間接に受ける関係者と企業が真摯に対話をし、企業活動を含む次なる社会を一緒に考える場です」という趣旨のもと2010年に黒部事業所でスタートした本ダイアログも10年を迎えました。本事業を10年継続したことは高く評価できます。この10年を振り返ると、企業の環境対策への意見から「より良い社会をステークホルダーとともにどう作るのか」へと変化しました。今後YKKグループが地域社会とつながり、どのように貢献できるのか真価が問われます。

九里（くのり） 徳泰（のりやす） 氏

- 相模女子大学学芸学部教授 博士（工学）
- 富山市政策参与
- 富山市環境審議会会長

森林経営

「ＹＫＫは森林です」

創業者吉田忠雄は、かつてそう語りました。
森林の中には、経験を積んで年輪を重ねた太い木も、若くて細い木もあります。
森林の木々のようにそれぞれの個性を活かして、自律的に成長する活力あふれた組織――
森林経営とは、それぞれの個性によってその得意とする能力を発揮して上手に働き、
誰に支配されるのでもなく一緒に前進していくということ。
全員が労働者であるとともに、経営者でもあるという考え方です。

ダイバーシティの推進

YKKグループでは、森林経営の考え方に基づき、ダイバーシティの推進を重要な経営課題の一つと位置付けています。性別・国籍・障がいの有無など「見かけの違い」だけでなく、価値観や経験など「内的な違い」にも目を向け、社員一人ひとりの持ち味を活かすことで、組織のパフォーマンスを高めていくことを目指しています。

社員のワークライフマネジメントを支援し、多様な働き方を実現するための諸制度整備を進める中、YKKは2018年に「プラチナくるみん認定」を取得しました。今後も多様な人材が活躍できる環境づくりに積極的に取り組んでいきます。

北中米極での国際女性デーへの取り組みは、下記URLをご参照ください
https://connect.ykknorthamerica.com/ykk-connect/ykk-north-and-central-america-region-celebrates-international-women-s-day

グローバルでの人材育成

グローバルに事業を展開するYKKグループでは、各国／地域に適応した人事制度を各社が設け、運用するとともに、社員の能力向上やキャリアアップを支援する施策の充実を図っています。EMEA極では、継続的な事業の発展を実現するための次世代リーダー育成を目的とした研修プログラム「EMEAアカデミー」を開催。国、会社、職掌を越えて、EMEA極の将来を議論・提案するコラボレーションタスクなどを実施しています。また、アジア極では人材育成プログラム「ATDP（Asia Talent Development Program）」を通して、自ら考え行動し、伸び行くアジア市場における事業の成長を担うリーダーの育成に努めています。

ATDP（Asia Talent Development Program）でのディスカッション風景

安全衛生への取り組み

YKKグループは、一人ひとりが安全衛生への強い自覚を持ち、安全で安心して働ける職場環境の形成に各社で取り組んでいます。YKK六甲では、2017年6月に無災害記録日数（稼働日数）3,750日を達成し、中央労働災害防止協会より中小企業無災害記録第三種（銅賞）を受賞しました。

YKK六甲
印刷事業等を行うYKKグループの特例子会社。1998年設立。徹底したバリアフリー環境で、重い障がいのある方も安心して働ける職場づくりに取り組んでいます。

2019
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500

YKK、YKK AP、YKKビジネスサポートの各社は「健康経営優良法人2019 大規模法人部門（ホワイト500）」に認定されました

経営理念の浸透を目指して

世界中の国と地域で事業を展開し、多様な文化・価値観を有する社員が集まるYKKグループにおいて、経営理念・コアバリューの浸透は、経営上の重要なテーマです。長年継続して取り組んできた理念や思想の共有を通じて、企業価値を高める人材の育成と企業風土づくりに注力しています。

社員一人ひとりが理念を理解し、実践する

YKK精神「善の巡環」は、創業以来、常に事業活動の基本として、YKKグループの発展を支えてきました。この精神を時代に合わせて進化させた新たな経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」を掲げたのが1994年。以降、YKKグループの理念・思想を確実に受け継ぎ、社員一人ひとりが体得・継承していくことを目的に、国内外のYKKグループ全体で組織的な経営理念浸透活動を展開しています。

4万人社員フォーラム

世界中で4万人以上の社員が働くYKKグループ。全社員がYKKグループで働くことへの誇りと一体感を持ち、未来へと力強く前進していくために開催しているのが、「4万人社員フォーラム」です。各国／地域、組織ごとに経営理念に関する映像などのツールを活用し、YKKらしさである考えや行動について議論します。「YKK精神」「経営理念」「コアバリュー」の理解を深めるとともに、個々が日々の業務において理念を実践することを促しています。

第1回（2008年）、第2回（2014年）に続いて、2018年度に「第3回4万人社員フォーラム」を実施しました。今回の目的は、社員一人ひとりが理念継承の当事者意識を持ち、理念が個々の業務の根幹となることとし、現場主導を重視して各組織で結成された「経営理念浸透チーム」が主体となって進めました。参加した社員からは「チャレンジすることの大切さをあらためて感じた」「お客様に喜ばれたときに理念を実感できると思う」「まずは模範となるような行動を自ら示したい」といった声が聞かれました。これからもさまざまな経営理念浸透活動を通じて、YKKグループの理念・思想を継承していきます。

YKKグループ 経営理念研究会

経営理念研究会では、毎年各事業から人選されたメンバーがYKKグループの理念・思想の継承を目的にその本質を研究しています。2018年度は「森林経営」をテーマとしました。「森林経営」という言葉はどのように生まれたのか。さまざまな文献や書籍、OB・OGへのヒアリングから、当時の創業社長の思想を確認しYKKグループでの「森林経営」の位置づけをまとめました。

2018年度経営理念研究会メンバー

中国極（YKK中国投資社）

南米極（YKKブラジル社）

コラム

経営学の視点から見たＹＫＫ精神「善の巡環」

創業者吉田忠雄の精神から生まれ、YKKグループの発展を支えてきた「善の巡環」。
YKK社外取締役 小野 桂之介 氏は、その経営哲学について、
書籍『YKK創業者吉田忠雄とその経営哲学「善の巡環」を語る』の中で以下のように解説しています。

「善の巡環」という考え方の本質は、世の中に貢献することが自らの繁栄につながる。そして、自ら繁栄することが世の中の発展に貢献する。これがぐるぐるとダイナミックに回るという概念だろうと思います。

（中略）

これをもう少し具体的に考えると、この巡環サイクルを動かす過程で創業者の価値観を色濃く反映した四つの原則があります。その第一は「貯蓄が大事である」ということです。人間と動物を分けるのは貯蓄なんだと言っておられます。ですから仕事によって生み出す価値の一部は貯蓄しておかなければいけない。これが「善の巡環」という哲学を実際に運用していく上での基本原則の一つです。

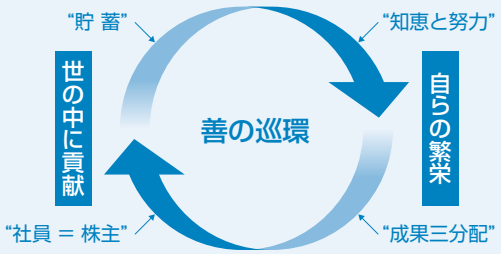
第二の基本原則は、これが最もユニークだと私は思うのですが、「本来株主というのは社員であるべきだ」という考え方です。三番目の原則は「知恵と努力」。個人でも組織でも、発展していこうとしたら、知恵を働かせ、人並みか、人並み以上の努力を重ねる必要があるというわけです。そして第四の原則は、企業活動で生み出した付加価値を、お客様、取引先、それから企業経営者と従業員を含む自分たち、この三者で分配しようという「成果三分配」の考え方です。

「善の巡環」という哲学は、これら四つの基本的な原則を通じてＹＫＫの経営のなかで実践されてきました。

（中略）

「善の巡環」という経営哲学は基本的に吉田忠雄創業者の信念・価値観から生まれているのだろうと思います。私がここで強調したいことは、信念・価値観、プラス経済合理性という二つの面があることです。「善の巡環」は信念・価値観から生まれた心情的な価値観なのだけれども、同時にＹＫＫという会社が発展していく上での経済合理性を伴った価値観、哲学だった。そのことが今日までのＹＫＫの発展を生んできた、ということです。

▼「善の巡環」を支える四つの原則



出典：吉田忠雄生誕一〇〇年記念出版『ＹＫＫ創業者吉田忠雄とその経営哲学「善の巡環」を語る』
（2008年）P43-52より抜粋

小野 桂之介 氏

1963年慶應義塾大学工学部管理研究科卒。1968年同大学院工学研究科博士課程修了。1970年ハーバード大学ビジネススクールInternational Teacher Program修了。1983年工学博士（慶應義塾大学）。1984年慶應義塾大学ビジネススクール教授。1997年同委員長兼校長。2005年慶應義塾大学名誉教授（現在）、中部大学経営情報学部長 兼 大学院経営情報学研究科長。2007年中部大学学監。2007年当社社外取締役（現在）。2010年中部大学副学長 兼 教授。2014年中部大学特任教授。2015年中部大学名誉教授（現在）。

主な著書：『海外生産における経営意思決定』（1984年）、『生産企業の経営』（共著／1990年）、『ミッション経営の時代』（1997年）、『ミッション経営のすすめ』（2000年）。

ＹＫＫグループ第5次中期経営計画

全体方針

第5次中期経営計画（2017年度～2020年度）では、「Technology Oriented Value Creation『技術に裏付けられた価値創造』」という経営ビジョンのもと、「商品力と提案力」、「技術力と製造力」、「人材育成」を最重要ポイントと位置づけ、営業利益率は8.0%以上、ROA5.0%以上の達成を目指して中期経営計画で掲げた取り組みを推進しています。

第5次中期経営方針（2017年度～2020年度）

〈中期経営ビジョン〉

Technology Oriented Value Creation

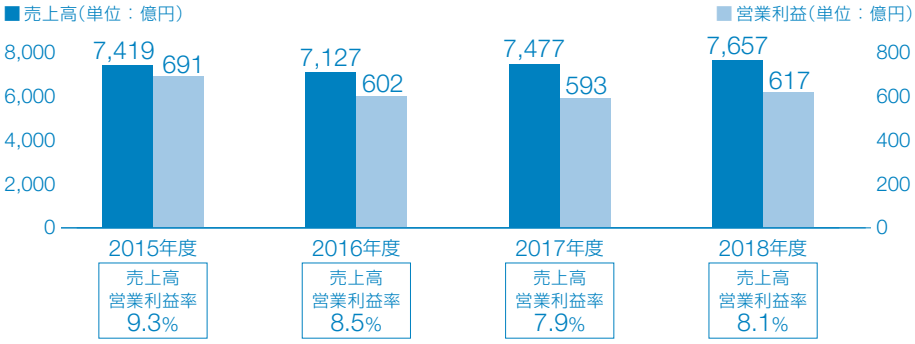
『技術に裏付けられた価値創造』

中期最重要ポイント		「商品力と提案力」、「技術力と製造力」、「人材育成」
中期経営目標		営業利益率　8.0%以上・ROA　5.0%以上
中期事業方針	YKK株式会社	「ものづくりの進化と革新」 ～Standard向けのＹＫＫものづくりへの挑戦～
	YKK AP株式会社	「高付加価値化と需要創造によるAP事業の持続的成長」

2018年度連結決算のポイント

当期の連結業績については、売上高は7,657億円（前期比2.4％増）、営業利益は617億円（前期比4.1％増）、経常利益は644億円（前期比7.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は458億円（前期比18.3%増）となりました。

▼ＹＫＫグループ 売上高・営業利益



ＹＫＫグループの2018年度の業績の詳細については、下記URLをご参照ください。
WEB https://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/g_news/2019/20190517.html

2019年度組織体制変更のポイント

ファスニング事業 「ファスニング サステナビリティ推進室」および「業務改革プロジェクト」を新設

近年、サステナビリティに関して社会の意識や顧客からの要請が高まっています。これを受け、ファスニング事業でサステナブルな事業展開と商品投入を立案・推進する「ファスニング サステナビリティ推進室」を新設しました。商品・技術による量的成長と環境対応を両立させるため、環境対応商品の企画・展開に注力していきます。さらに、持続可能な事業体制を構築するために、コンプライアンス体制の維持・強化を図り、持続可能な事業の実現を目指します。

同時に、グローバルでの標準業務プロセスを立案・構築する「業務改革プロジェクト」を設置し、各国／地域における事業環境の変化へ迅速に対応し、ファスニング事業の世界展開を支えていきます。

AP事業 品質本部を新設

AP事業では2019年度の重点施策の一つに品質強化を掲げています。商品の開発プロセスに加え、受注から量産、発売後までの品質を更に強化することを目的に、「品質本部」を設立しました。AP事業全体に横串を通し、商品品質に留まらず工程における施工品質やサプライチェーンの全プロセスでの品質確保を担う組織として、以下の3点を重点活動として取り組んでいきます。

❶受注から出荷までの品質確保プロセスの確立・再構築（外注品含む）
❷品質確保プロセスの運用促進と更なる強化
❸顧客価値向上に向けた品質保証体制の構築

以上は2019年3月5日の発表事項です。当日の発表内容の詳細は下記URLをご参照ください。
WEB https://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/g_news/2019.html

ファスナー年間販売数量が初の100億本を突破

YKKの2018年度におけるファスナーの販売数量は100.7億本（前期比105.7%）となりました。100億本達成は創業85年目、海外進出60年目での実現となり、長さに換算すると300万km以上、地球約80周分に相当します。

地球約80周分

ＹＫＫグループ 過去11年分の主要財務データ

回　次 決算年月	第74期 2009年3月	第75期 2010年3月	第76期 2011年3月	第77期 2012年3月
売上高（百万円）	613,446	556,439	544,896	544,434
経常利益（百万円）	15,862	16,572	30,976	26,681
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	△ 42,785	3,828	10,136	16,334
包括利益（百万円）	－	－	△ 6,090	14,336
純資産額（百万円）	384,695	399,866	391,095	403,169
総資産額（百万円）	705,886	689,593	690,322	715,364
1株当たり純資産額（円）	314,223	326,352	318,900	328,395
1株当たり当期純利益（円）	△ 35,681	3,192	8,453	13,622
自己資本比率（%）	53.4	56.7	55.4	55.0
自己資本利益率（%）	△ 10.0	1.0	2.6	4.2
営業活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	65,867	68,431	55,955	32,076
投資活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	△ 44,114	△ 32,636	△ 31,635	△ 39,667
財務活動によるキャッシュ・フロー（百万円）	△ 13,809	△ 21,795	△ 13,465	6,636
現金及び現金同等物の期末残高（百万円）	74,571	90,429	98,201	96,891
従業員数（人） ［外、平均臨時雇用者数］	38,530 ［7,531］	37,597 ［5,595］	38,080 ［7,031］	37,719 ［7,127］

注1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

注2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

注3. 株価収益率については、非上場につき記載しておりません。

注4. 2014年3月期より従業員の範囲を変更し、従来、平均臨時雇用者数に含まれていた嘱託、エルダー社員等を従業員数へ含めることといたしました。

注5. 2010年3月期の連結財務諸表の作成にあたり、在外連結子会社43社については、連結決算日現在で実施した仮決算（15カ月）に基づく財務諸表を使用しております。また、在外連結子会社47社の決算日を、12月31日から3月31日に変更しており、15カ月決算となっております。

第78期 2013年3月	第79期 2014年3月	第80期 2015年3月	第81期 2016年3月	第82期 2017年3月	第83期 2018年3月	第84期 2019年3月
576,965	696,929	721,037	741,935	712,783	747,762	765,781
33,681	66,022	69,720	70,988	61,545	59,924	64,466
32,692	44,908	46,978	44,646	45,180	38,728	45,824
70,777	70,447	81,416	△ 20,695	51,998	30,123	38,420
471,271	513,543	586,664	561,547	609,848	636,361	671,195
788,440	883,336	946,283	954,060	963,231	978,563	1,011,934
384,171	417,986	477,438	456,991	496,267	518,187	546,662
27,265	37,453	39,181	37,237	37,683	32,302	38,220
58.4	56.7	60.5	57.4	61.8	63.5	64.8
7.7	9.3	8.8	8.0	7.9	6.4	7.2
67,214	85,186	91,254	101,727	81,619	57,525	68,607
△ 44,013	△ 60,708	△ 65,976	△ 95,252	△ 59,345	△ 67,661	△ 53,888
△ 11,719	△ 3,784	△ 4,379	△ 4,359	△ 14,569	△ 4,470	△ 3,255
116,510	143,131	173,558	167,229	171,259	155,076	166,241
38,235 [7,123]	40,306 [6,828]	42,154 [5,738]	44,250 [5,390]	44,674 [4,801]	45,618 [4,538]	46,167 [4,430]

FASTENING PRODUCTS

ファスニング事業

新たなる成長戦略の展開

「Fasten」＝留める、つなぐものを取り扱うファスニング事業は創業以来、80年以上にわたりスライドファスナー、面ファスナー「クイックロン」※1、繊維テープ・樹脂製品、スナップ&ボタンなどのファスニング商品を製造・販売しています。

徹底した品質管理と一貫生産システム、そしてさまざまなお客様のニーズに応じた供給体制のもと世界中で同一の高品質を提供することで信頼を確立してきました。

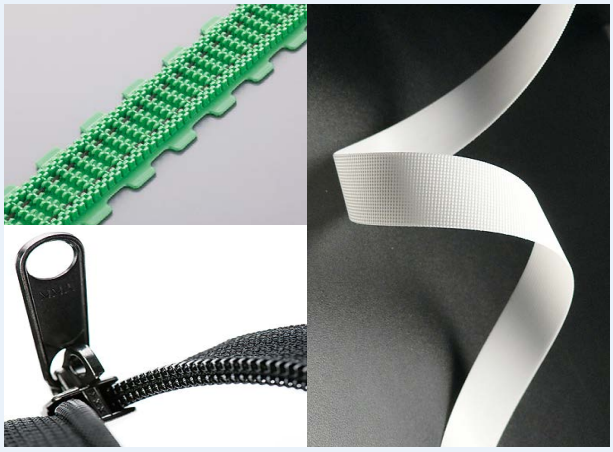
ますます多様化するニーズにスピーディーにお応えするべく、それぞれのお客様が求める商品において最も適した販売・開発・製造のあり方を追求し、商品やサービスの満足度を高めながら新たなる成長を目指していきます。

▶アパレル分野

お客様のニーズに応え続けるために

いま、世界のファッションビジネス業界は消費ニーズの多様化と商品の短サイクル化が進行し、更なる商品開発のスピードアップとリーズナブルな価格への要望が高まっています。世界のスーパーブランドやスポーツアパレルブランドはもとより、拡大するアジアなどの市場での増販を目指し、Standard向け商品やBOP※2向け商品の対応により力を入れていきます。

現在、世界のあらゆる場面でYKK商品をご利用いただいていますが、これからもより多くのお客様の求める商品を提供すべく技術力を一層高め、挑戦を続けていきます。



▶汎用資材分野

より多くのお客様にお使いいただくために

YKKのファスニング商品は、車両用・紙おむつ用や鞄などさまざまな汎用資材分野においてもその用途は無限の可能性を秘めており、お客様の用途、要望に合わせたファスニングソリューションを提案します。今後も幅広い分野でお使いいただけるよう、商品の企画力や開発力を追求し続けます。

※1「クイックロン」はYKK株式会社の登録商標です。
※2 Base of the Pyramid

YKKでは、安全・安心、また環境に配慮した商品を提供すべく、世界レベルの製品安全・品質基準に準じた商品づくりを行っています。
YKKのファスニング商品の品質保証体制については、下記URLをご参照ください。
WEB https://www.ykkfastening.com/quality/（英語）

FASTENING PRODUCTS

ファスニング事業

第5次中期経営計画　事業方針

事業方針として「更なる量的成長を目指して」を掲げ、それを実現させるために「Standardでの競争力強化」を進め、「より良いものを、より安く、より速く」顧客に提供することを目指します。その根幹にあるのは技術であり、数字はあくまでバロメーターとして、質の伴う成長を目指します。

重点施策	• 更なる開発体制の強化 • バリエーション拡充 • 納期対応 • コスト競争力強化	2020年度までの計画	• 設備投資額　1,541億円 • 開発拠点増設数　19拠点 • 開発人員増加数　250名

2018年度実績

ファスナー販売数量

100.7億本

売上高

3,328億円

営業利益

536億円

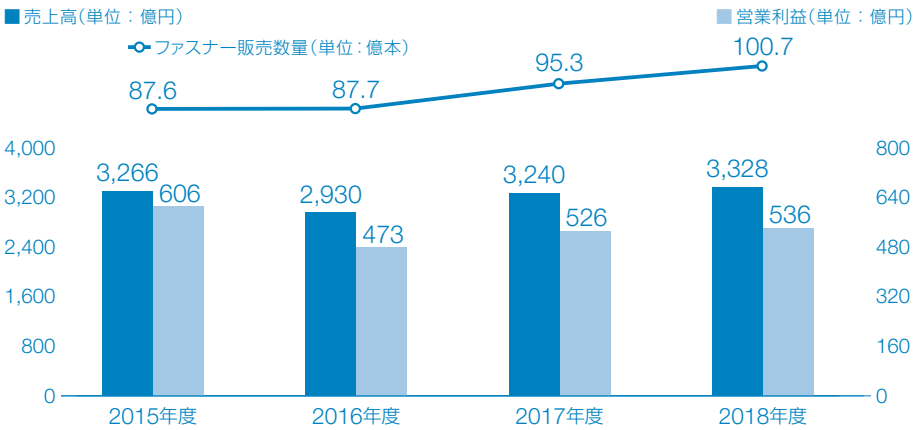
2018年度連結決算のポイント

ファスニング事業は、中国・アジア地域における供給体制の増強、欧米では高付加価値品の増販に取り組みました。その結果、原材料価格上昇や中国・アジア地域での投資に伴う製造固定費の増加等があったものの、販売ボリュームの増加および操業度の向上に加え、継続的なコスト削減による増益要因が大きく、売上高は3,328億円、営業利益は536億円と増収増益になりました。

2019年度事業方針

2020年度ファスナー販売数量128.8億本を目指し、「Standard」を最重要カテゴリと位置づける一方で、「Value Conscious」「BOP」などそれぞれのカテゴリにおいて商品とものづくりに事業競争力の強化を実現します。また、世界のファスニング開発体制の基盤をより一層強化し、地域に密着した商品開発により顧客要望にタイムリーに応えていきます。さらに成長市場であるアジアで供給基盤の一層の強化のための積極投資を行うなど、2019年度ファスニング事業総投資額は489億円（うち約36%の175億円をアジア極に投資）を計画しています。日本においても、昨年設置したジャパンカンパニーの営業部門を「地域軸」に再編するとともに黒部に「開発推進室」を設置し、黒部工場の一部建て替えやFA設備導入も進めて製造納期の短縮を目指すなど顧客サービスを更に強化します。

▼ファスニング事業 売上高・営業利益



2018年度の主なトピック

更なる量的成長を目指して
～より良いものを、より安く、より速く～

YKKバングラデシュ社第2工場

2018年度は、中期事業方針「更なる量的成長を目指して」のもと、成長するアジア地域での増産体制の構築、欧米量販店等や各国内需の深耕によるStandard向けの増販、商品開発拠点の増強と商品バリエーション強化に取り組んできました。アジア成長市場への積極的投資では、内需市場拡大ならびに加工輸出向け供給拠点として、2017年度に竣工したYKKバングラデシュ社第2工場が順調に稼働しています。商品開発拠点の増強では、2018年4月にYKKベトナム社にR&Dセンターを開設、これにより2018年度末のファスニング開発拠点数は36拠点（うちR&Dセンターは8拠点）、945名となりました。

ファスニング事業本部「ジャパンカンパニー」設置で
製造・開発・販売の一体化を目指す

縫製産業が大きく変化する一方で、顧客要望の多様化、短納期化がますます進む日本市場。日本における製造・開発・販売を一体化しお客様の声を直接ものづくりの現場へつなぐことで、開発商品やサービスのより迅速な提供を目指すために、2018年4月、ファスニング事業本部内に「ジャパンカンパニー」を設置しました。なお、YKKの国内販売の完全子会社であるYKKファスニングプロダクツ販売(株)を2018年7月に吸収合併しています。また、黒部でのものづくりにこだわり、黒部工場をグループ内の技術力を結集させた「24時間稼働モデル工場」とするべく、2019年度は黒部工場の一部建て替えやFA設備導入も進め、製造納期の短縮を目指すなど顧客サービスを更に強化していきます。

ARCHITECTURAL PRODUCTS

AP事業

開口部の更なる可能性を目指して

人の営みを包み込む住まいやビルは、社会の資産でもあり、私たちの文化の一つでもあり、そして地球環境の一部でもあります。

YKK APが担うAP事業では、快適な住空間を創造する「窓やドア」、美しい都市景観を創造する「ビルのファサード」など、さまざまな建築用プロダクツを通して、暮らしと都市空間に先進の快適性をお届けすることを目指しています。

▶住宅用商品

時と地域と、そして美しさと、個性を大切にする住まいづくりを応援していきます

より快適な暮らし、新しい暮らしのための住宅を目指し、窓・ドアからエクステリアまで、さまざまな商品をお届けしています。特長は、基本性能プラス、色やデザインのバリエーションと機能性などの高度な付加価値。用途や好み、バリアフリー、断熱、環境、リサイクルなどの新しい次元のニーズにも的確にお応えしています。

▶ビル用商品

建築の理想に向けて、新しい価値をお届けしていきます

超高層ビルから中低層ビルまで、すべての建築で、求められるデザインや機能と性能をお届けします。そのために必要な各種パーツやシステムは長年の実績が証明します。グローバルな展開と数々のビッグプロジェクトで培ってきた豊富なノウハウをご活用ください。商品開発から製造だけでなく、施工、アフターサービスまでを、しっかりとサポートします。

YKK APでは、お客様に安全・安心をお届けすることを目指し、全社を挙げて製品安全活動に積極的に取り組むために「製品安全宣言」および「製品安全行動指針」からなる「YKK AP製品安全基本方針」を制定しています。
YKK APの製品安全基本方針は、下記URLをご参照ください。
WEB https://www.ykkap.co.jp/company/japanese/safety/

ARCHITECTURAL PRODUCTS

AP事業

2018年度実績

売上高

4,280億円

営業利益

235億円

第5次中期経営計画　事業方針

国内の新設住宅着工戸数の縮小が予測される厳しい市場環境においても、事業の持続的な成長を目指し、「高付加価値化と需要創造によるAP事業の持続的成長」を事業方針に掲げ、7つの事業・業務領域でそれぞれ重点施策に取り組みます。

重点施策

- **住宅事業**：窓の高断熱化
- **エクステリア事業**：商品力をベースにした販売強化
- **リノベーション事業**：需要創造による成長戦略の推進
- **ビル事業**：エンジニアリング力強化と高断熱化への取組
- **海外AP事業**：基盤再強化とターゲット市場拡大
- **ファサード事業**：ファサード事業のプレゼンス拡大
- **業務改革**：ビジネスプロセスの標準化と最適化

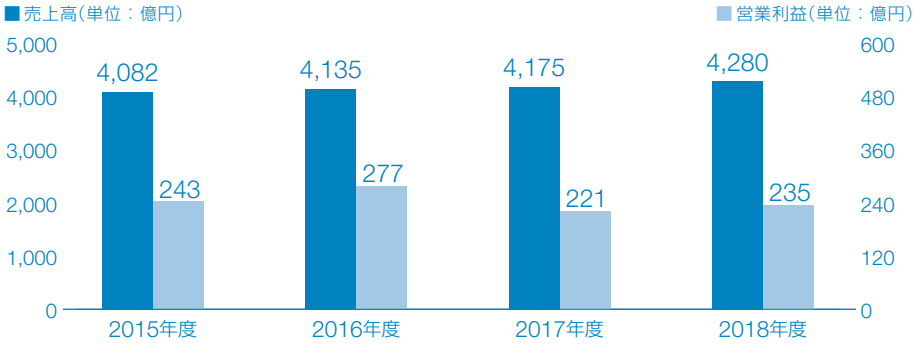
2018年度連結決算のポイント

AP事業は、国内においては、住宅向け樹脂窓の拡販をはじめとする高断熱化への施策を推進しました。また、エクステリア商品を中心に需要創造に取り組みました。海外においては、米国・中国での販売が好調に推移しました。その結果、原材料・資材価格の高騰等による減益要因があったものの、売上高は4,280億円、営業利益は235億円と増収増益になりました。

2019年度事業方針

国内住宅事業では、樹脂窓・アルミ樹脂複合窓とトリプルガラスにより窓の高断熱化を引き続き推進するとともに、商品の高付加価値化により暮らしに安心と快適性を提供します。エクステリア事業では商品力をベースにした販売強化、リノベーション事業では「大開口・高断熱・耐震」と「防災・防犯」をキーワードに需要創造による成長戦略を推進します。また、品質強化については、2019年度より品質本部を新設し、サプライチェーン全プロセスにおける品質確保を更に強化します。一方、海外AP事業では「基盤の再強化とターゲット市場の拡大」を目指し、米国・中国・アジア地域での販売を強化します。

▼AP事業 売上高・営業利益



2018年度の主なトピック

YKK APの技術と品質で家づくりをサポート「パートナーズサポートスタジオ」開設

パートナーズサポートスタジオ 外観

安全・安心や健康・快適など住まいに求められる生活者のニーズが高まる一方、建築業界では深刻な職人不足や高齢化に加えて、品質への要求が一段と高まっています。そのような背景から、プロユーザーが抱える個々の課題や要望に対して技術提案を行うための施設として、2019年3月、YKK AP黒部荻生製造所内に「パートナーズサポートスタジオ」を開設しました。実物大の住宅モデル展示をはじめ、商品の施工時や使用時に関わる品質や技術、省施工につながる新たな取り組みなどの提案を通じて、パートナーであるプロユーザーとともに「快適で安全・安心な住まいづくり」を目指していきます。

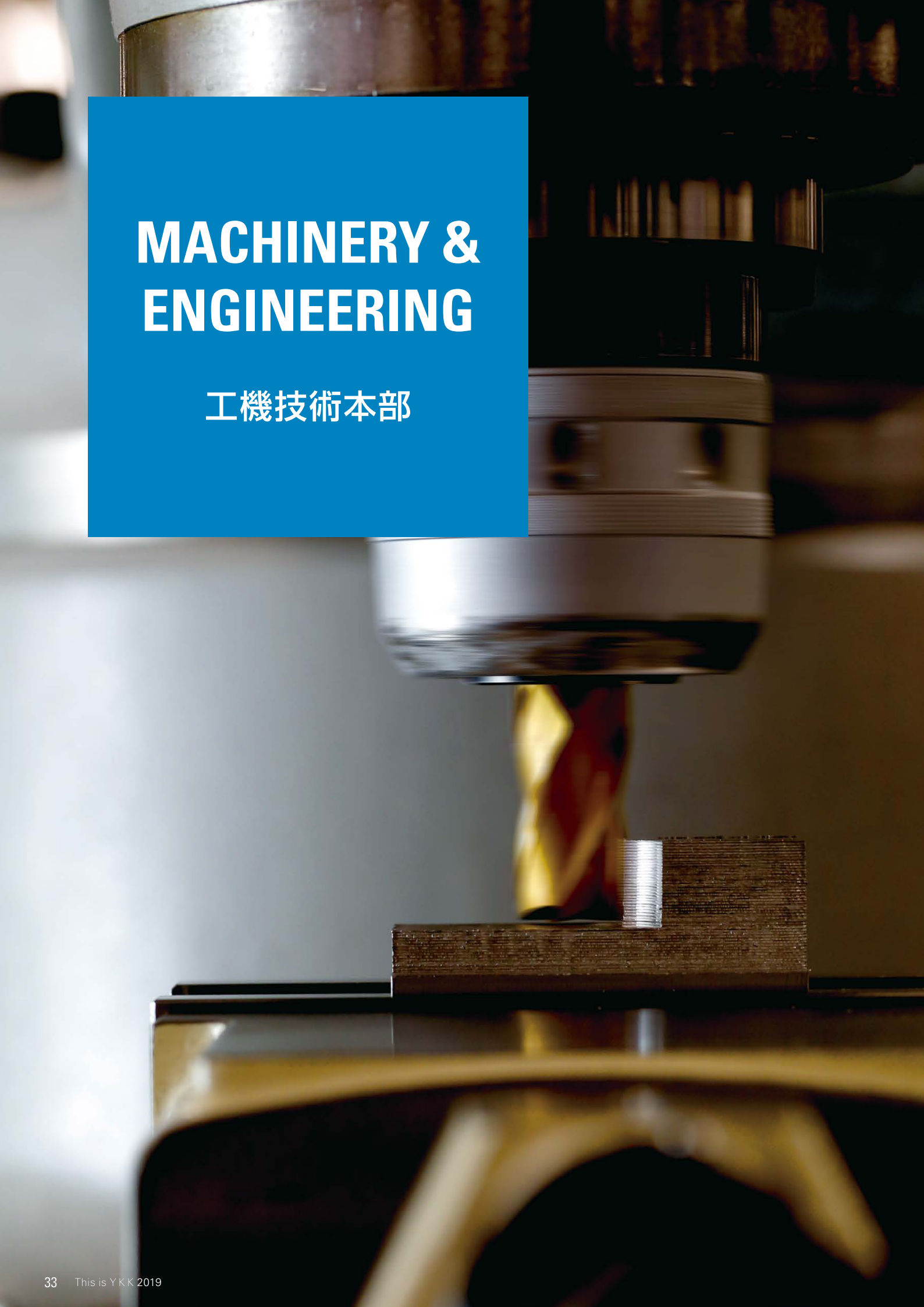
パートナーズサポートスタジオ トレンドゾーン

テクニカルゾーン

伸長するホテル市場に快適な客室空間を提供 高断熱樹脂窓「HOTEL MADO」

「観光先進国」に向けた政府の取り組みを背景に訪日外国人旅行客数は年々増加しており、ホテルの開業拡大が見込まれています。一方、日本のホテルは窓際にベッドを配置することが多く、窓辺で冷やされた空気がベッドや足元に広がるコールドドラフトなどの影響が懸念されます。YKK APでは、断熱性・省エネ性を高めたホテル専用の高断熱樹脂窓「HOTEL MADO」を2018年12月に発売しました。これまで主流だったアルミフレームと複層ガラスの窓に比べて断熱性能が約3倍に向上し、コールドドラフトを抑制。伸長するホテル市場で、快適な客室空間の提供に貢献していきます。

「HOTEL MADO」



MACHINERY & ENGINEERING

工機技術本部

グループ事業競争力の強化に向けた技術開発力の強化

工機技術本部は、YKKグループの技術開発機能の中核として、「機械開発」と「機械製造」の両面から、YKKグループの成長・発展に貢献しています。YKKグループは、材料から製造設備、製品に至るまでの一貫生産思想によりグローバルに成長してきました。工機技術本部では、材料開発、設備開発、機械部品・金型・機械製造により、ファスニング事業・AP事業向けの専用機械を国内外のYKKグループ各工場に供給しています。事業競争力の更なる強化に必要となる要素技術については、自社内開発による深耕を図る一方で、企業・大学との連携による社外技術の導入を進めています。

事業の製造現場に適応する設備開発

製造技術開発　ファスニング事業向けには各国／地域の工場に適応したファスナー専用機械の開発・設計を、AP事業向けには窓を中心とするAP商品の生産ラインや生産システムなどの開発・設計を行っています。

機械製造　製造技術開発部門で開発した機械の製造・供給により、ファスニング事業、AP事業の高い品質とコスト競争力を支えています。また、幅広い精密加工技術により、その品質を支える金型の製造などを行っています。

中長期視点での技術開発

基盤技術開発　商品をつくりあげる材料開発や、製造工程を革新するプロセス技術の開発を行っています。また、商品の製造に不可欠な金型の材料およびその加工技術の開発、さらには機械設備に必要な要素技術開発にも取り組んでいます。

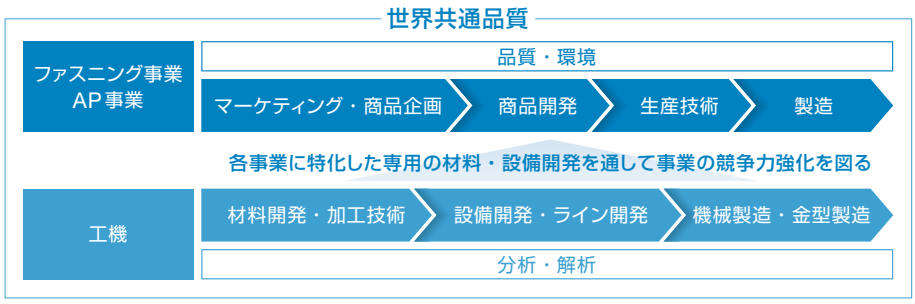
分析・解析　材料の微量成分や微細構造など、材料開発や商品品質の向上に不可欠な分析により、YKKグループの技術開発を支援しています。また、シミュレーション技術を用いた商品性能・品質の事前予測や独自のシステム開発により、事業における開発スピードの向上に貢献しています。

MACHINERY & ENGINEERING

工機技術本部

YKKグループの一貫生産思想

YKKグループは、材料から製造設備、製品までを自社で開発・生産する「一貫生産」を実現しています。各種材料およびプロセス開発などの要素技術から、環境対応型のリサイクル技術、物流・販売、製造システムの構築まで、高品質な商品を世界のどこでも安定して供給できるプロセスを通して、YKKグループならではの「世界共通品質」をつくり出しています。



第5次中期経営計画　執行方針

ファスニング・AP事業の一貫生産体制を支える工機技術本部では、第5次中期執行方針として「基盤となる要素技術の強化と進化」を掲げ、「スタンダードへの挑戦～『高機能』『低価格』の追求～」を目指します。

重点施策
- 第2段階の事業の製造現場に適応する設備開発
- 中長期視点に立った技術開発（ロボット活用技術力の強化など）

2019年度 執行方針

2019年度の重点施策は、ファスニング専用設備・ライン開発における連続稼働とラインの製造原価低減、AP専用設備・ライン開発における樹脂窓・アルミ樹脂複合窓製造ラインの改善・改良・進化、材料・プロセスまで踏み込んだコスト低減、また機械製造におけるものづくり力と生産管理機能の強化、そしてロボット活用技術とデジタル化技術の推進を行っていきます。

製造現場におけるマンツーマン教育

2018年度の主なトピック

技能者・技術者の人材育成

YKKグループの強みは「技能を伴ったものづくり」です。2018年度は、若手技能者の技能五輪への挑戦に加え、製造現場での基礎講座の充実やOJT教育等でスキルアップに努めました。2019年度も引き続き、原理原則と実践のバランスを持った人材育成を行い、更なるレベルアップを図ります。

RESEARCH & DEVELOPMENT

研究開発活動

当社グループ（当社および連結子会社）の研究開発に対する取り組みは、事業展開と同様に日本を中心とした、北中米、南米、EMEA（ヨーロッパ・中東・アフリカ）、中国、アジアの世界6極体制で行っています。
当連結会計年度の当社グループ全体の研究開発費は23,351百万円となっています。
当連結会計年度における主な研究開発成果は、次のとおりです。

ファスニング事業

ファスニング事業本部では、第5次中期事業方針を「更なる量的成長を目指して」と掲げ、最重要カテゴリと位置づけるStandard市場での競争力強化を図るとともに、高付加価値市場やアジア内需市場での顧客要望実現に向けた新商品開発および開発体制の更なる強化に取り組んでいます。

主な成果として、アジア内需市場向けパンツ専用ファスナー製品や、サステナビリティへの取り組みの一環として植物由来合成繊維を使用した樹脂ファスナー製品を開発、そして従来よりも薄く強い新構造織込み製法を活用した鞄向けファスナー製品のバリエーションを拡充しました。スナップボタン分野では、環境に優しく品質・コスト面に優れた新表面処理技術を用いたジーンズボタンを開発しました。また共同開発したジーンズ用ファスナー縫製合理化装置を通して縫製ベンダーの工程を合理化、作業が自動化され生産性が向上しました。

今後は引き続き海外開発拠点の増強や現地開発者の育成を行い、世界のファスニング開発体制の基盤を一層強化、世界中であらゆる顧客要望をタイムリーに実現し、より多くの人に新たな価値を提供していきます。当事業に係る研究開発費は9,450百万円です。

AP事業

AP事業では、第5次中期事業方針を「高付加価値化と需要創造によるAP事業の持続的成長」と掲げ、フロントローディング開発プロセスへ改革を図り開発力を底上げし、商品・現場・使用・情報の4つの品質を高めた高付加価値商品による需要創造に取り組んでいます。

主な成果として、住宅分野では高性能トリプルガラス樹脂窓「APW430」引違い窓や玄関ドア「ヴェナート D30」、エクステリア分野ではテラス・バルコニー向け屋根・囲い商品「ソラリア」、ビル分野ではホテル専用高断熱樹脂窓「HOTEL MADO」等を開発し商品力の徹底強化を図りました。

また、旧電装商品のメンテナンス商品投入や組立・施工・メンテナンス業者様向けメンテナンスマニュアル発刊等、情報発信・サービス展開も同時に力を入れています。

今後、一層の競争激化・資材高騰という厳しい事業環境の中、収益性向上へ徹底した商品の構造・構成・体系の再構築、リフォーム・メンテナンス等、全領域での対応力と品揃え、日本だけではなく海外や次世代を見据えた人材育成により技術力・商品力・収益力を一層向上させ、顧客満足度No.1を目指します。当事業に係る研究開発費は9,474百万円です。

その他

工機技術本部では、YKKグループの一貫生産を支える技術開発機能の中核として、第5次中期執行方針である「基盤となる要素技術の強化と進化」を軸に「高機能」と「低価格」を通して「スタンダードへの挑戦」に取り組んでいます。

2018年度の主な開発テーマは、ファスニング事業向け設備開発では、設備総合効率向上に向けた仕上機の開発、連続稼動に向けたチェーンマシン、多品種に対応したスライダー組立機の開発に取り組みました。AP事業向け設備開発では、樹脂窓、アルミ樹脂複合窓におけるロボットを活用した省人化ラインの開発に取り組みました。ロボットにおいては、ファスナーや部品をハンドリングする要素技術開発を行いましたので、2019年度は試作機の開発に取り組みます。

2019年度はこれらの展開とあわせて、「材料・プロセスまで踏み込んだコスト低減」、「ものづくりのデジタル化推進とAI技術者育成」、「めっき専用液開発・内製化」に取り組み、事業競争力の更なる強化を目指していきます。

これらに向けての必要な要素技術については、自社内開発による深耕を図る一方で、企業・大学との連携による社外技術の導入や共働開発を積極的に行っていきます。当本部による研究開発費は4,426百万円です。

対談

持続可能な社会への貢献を目指して

YKK精神「善の巡環」のもと、本業を通した持続可能な社会への貢献を目指してきたYKKグループ。老舗企業が培ってきた叡智に深い造詣をお持ちの福澤 武 氏をお招きし、企業における理念の大切さについて、当社取締役 吉田忠裕と対談いただきました。

三菱地所株式会社名誉顧問
一般社団法人Spirit of SHINISE協会会長
福澤 武 氏

YKK株式会社 取締役
YKK AP株式会社 取締役
吉田 忠裕

福澤 武 氏／1932年東京生まれ。1961年慶應義塾大学法学部卒業。同年三菱地所株式会社入社。営業部長、取締役営業部長などを経て1994年より取締役社長。2001年取締役会長。2007年相談役。2015年より現職。一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会会長、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン音楽祭実行委員長を歴任。著書の『独立自尊を生きて』(慶應義塾大学出版会)には12年にわたる闘病の末に、重篤な結核を克服した記録や「丸の内再構築」に挑んだ三菱地所社長としての想い、曾祖父である福澤諭吉氏について綴られている。

吉田 忠裕／1947年富山県生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。1972年米国ノースウェスタン大学経営大学院(ケロッグ)修了、YKK株式会社(旧吉田工業株式会社)入社。1990年YKK AP株式会社 代表取締役社長。1993年YKK株式会社 代表取締役社長。2011年YKK株式会社／YKK AP株式会社 代表取締役会長CEO。2018年YKK株式会社／YKK AP株式会社 取締役(現任)。

老舗精神が老舗をつくる

吉田　本日は貴重なお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。

福澤氏　こちらこそお招きいただき光栄です。ここのところ、吉田さんとは「Spirit of SHINISE協会」の会合でお会いする機会が増えてきましたよね。

吉田　そうですね。お目にかかることを楽しみに出席させていただいています。せっかくの機会ですので、まずこの「Spirit of SHINISE協会」について、ご紹介いただけますでしょうか。

福澤氏　わかりました。この協会は、老舗企業の精神や哲学を勉強し、継承する集まりです。企業を社会の公器と考え、永続性という健全で長期的な繁栄を求める経営を「老舗精神／Spirit of SHINISE」と呼んで、その本質を学び、古来よりの老舗的価値観に新しい意義を付加して、22世紀、23世紀の社会資本となりうる老舗精神を構想することを理念として活動しています。つまり、「老舗精神が老舗をつくる」という哲学から成り立っているのです。この哲学をさまざまな手段と方法によって明らかにして、実践していくことを目的としています。上場企業・非上場企業、オーナー企業・非オーナー企業、創業者企業・非創業者企業、長寿企業・非長寿企業、大企業・中堅企業の区別なく、まさに「老舗スピリットへの共感」という一点で結びついた会なのです。

吉田　YKKは2011年から参加させていただいているのですが、そうそうたる企業の経営者の方々から、直接、各社の精神や哲学、理念、その成り立ちについてうかがう機会に恵まれ、毎回、本当に多くのことを学ばせていただいています。

福澤氏　それはうれしいですね。これまでに、私も数多くの老舗企業の精神を知る中で、特に共通しているなと思う点があるのです。それは、どの企業も「社会と共にあることや顧客を大切にすることについての深い叡智」を伝統的に持っているということなんですね。さらに、こうした精神や知見を長い時間をかけて醸成させ続けてきたという点も共通している。もちろん、スタイルは企業によって千差万別ですが、社会、お客様はもとより、社員とも真摯に向き合って、確かな信頼関係をつくることに、非常に熱心な会社ばかりです。また、こうした試みを、長期的なビジョンのもとに泰然とした姿勢で、事業に反映している点も特徴となっている。私は、これも短期的な利益より「事業の継続性」を尊重する哲学が根づいているからだと考えているんです。

吉田　おっしゃる通りだと思います。そのようにして培った叡智を、サステナブルな経営のビジョンときちんと結びつけ、現代的なアプローチに進化させている点も共通していますよね。福澤さんがおっしゃるように、私も事業の継続性が大きなポイントだと思っています。結局のところ、事業の継続性についての考察を、どこまでも視野を広げて展開していくと、人々の暮らしや社会につながっていきますので。

「善の巡環」は実践哲学

福澤氏　YKKグループの企業精神「善の巡環」も、同様の考えに基づくのですよね。

吉田　はい。YKKの創業者吉田忠雄は、事業を進めるにあたり、企業は社会の重要な構成員であり、共存してこそ存続でき、その利点を分かち合うことにより社会からその存在価値が認められるものということに最大の関心を払い、お互いに繁栄する道を考えました。それは事業活動の中で発明や創意工夫をこらし、常に新しい価値を創造することによって、事業の発展を図り、それがお得意様、お取引先の繁栄につながり社会貢献できるという考え方です。このような考え方を「善の巡環」と称して、常に事業活動の基本としてきました。私どもはこの考え方を受け継ぎ、YKK精神としています。

福澤氏　なるほど。

吉田　そして、「善の巡環」はロジカルに構築した考え方というよりは、品質・コスト・海外市場との激しい闘いの中から生まれた、実践哲学なのです。目の前の課題はもちろんのこと、より大きな困難に直面した時、いつもこの精神にのっとり、失敗を恐れず果敢に挑戦し、これらを乗り越えてきました。このように、「善の巡環」はYKKの生々しい歴史の中でまさに全事業を貫く精神的支柱、根幹となったのです。

福澤氏　興味深い成り立ちですね。

吉田　ありがとうございます。私どもは、本業を通じたよりよい社会への貢献が企業活動の目的だと考えています。長期的な視野でビジネスを考えた場合には、特にこうした視点が大切です。私どもの場合、理論を積み重ねた結果としてここにたどり着いたわけではなく、さまざまな経験を積むなかでこうした哲学に至ったということなのです。

福澤氏　なるほど。いろいろな局面を打開する中でたどり着いた実践哲学というわけですね。

吉田　おっしゃる通りです。

形あるものは消えるが、考え方は永遠

吉田　ところで、福澤さんはいつ頃から老舗のスピリットに注目されるようになったのでしょうか。

福澤氏　きっかけは、やはりリーマンショックです。あの一件で世界経済が大打撃を受けたときに、近視眼的な価値観で利益だけを追い求める風潮が、いかにまん延しているかを思い知らされ、暗たんたる気持ちになりました。

吉田　私も違和感を覚えました。リーマンショックに至る一連の流れを見たときに、今後の市場経済は、いったいどこへ向かっていくんだろうと。実業とは異なるステージで動く何かが経済に影響を及ぼしていることだけは確かでしたが、それが社会のプラスに働くとは思えませんでしたので。

福澤氏　実体経済から遊離したところでマネーゲームが行われるような状況が、世界中でまかり通っていましたからね。もちろん、お金儲けは企業にとって大切なことですから、否定するつもりはありません。しかし、それだけが目的化してしまっては絶対にいけないのです。一連の経済不況を目の当たりにして、私のこうした想いは強まるばかりでした。そんな中、ある知人から「日本の老舗について一緒に研究してみませんか」という提案を受けたんです。聞けば、彼も当時の風潮に強い疑念を抱いているという。そのときに、老舗企業が持っている精神や哲学には、こんな時代だからこそ学ぶべき「理」があるなと。

吉田　おっしゃる通りだと思います。「老舗企業が大切にしているのは、目先の利益をやみくもに追うことではなく、社会と共にあろうとする想いだ」と福澤さんは、以前にお話しされていましたが、私も心からそう思うのです。同時に、「老舗として歴史を積み重ねていくためには、『創造』と『破壊』をたえまなく繰り返す必要がある」ともおっしゃっていますよね。

福澤氏　そうですね。例えば、収益のシステムや制度設計などを、後生大事に守り抜こうとしているようでは、長い歴史を刻むことなど到底できません。そういう意味では、伝統のある老舗企業は、「創造」と「破壊」を繰り返しながら、常に自己刷新を図ってきた組織といえます。つまり、老舗企業が継承してきたのは、あくまでスピリットであり哲学ということです。いわば、カタチのない精神性こそを重視してきたわけですね。

吉田　同感です。創業者の吉田忠雄も「形あるものは消えるが、考え方は永遠」と話していました。大切なのは、自ら変革しながら、時代に対応する価値を常に創造し続けることですよね。時には、未来に向けてドラスチックに何かを変える必要もでてくるわけですが、その場合にも、よって立つところが重要だと。それが企業精神であり、だからこそ、その精神の継承が重要であるということですね。

福澤氏　ええ。中心に「真に守るべきもの」がなければ、「創造」と「破壊」をブレずに繰り返すこともできないのです。つまり、すべては企業活動の中心に、哲学や精神性、そして経営理念があってのこと。そこを、私たちは常に胸に刻んでおかなければならない。同時に、企業は「社会の公器」であるべきということも忘れてはいけません。持続可能な経営は、幅広いステークホルダーに愛され、社会に必要とされることで、初めて成り立つのですから。

吉田　大変に勉強になります。ぜひ、心がけてまいります。YKKのビジネスはB to Bではあるのですが、お客様の先にエンドユーザーとその暮らし、もっといえば社会があるということをあらためて肝に銘じ、これからもものづくり企業として、技術に裏付けられた社会的な価値の創造に挑んでまいりたいと思います。本日は貴重なご提言をありがとうございました。

ＹＫＫ精神に基づく経営基盤

ＹＫＫグループは社会的責任を果たすための経営基盤を整備し、企業価値向上を目指して取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス

基本的な考え方

ＹＫＫグループは、その企業活動の中で、「他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」という「善の巡環」の精神を基本とし、一貫して公正であることをあらゆる経営活動の基盤としています。当社グループは、こうした考えに沿って、より一層の企業価値の向上を図ることを目的としたコーポレート・ガバナンス体制の充実に取り組んでいます。

ＹＫＫのコーポレート・ガバナンスは、経営方針等の重要事項に関する意思決定機関および監督機関としての取締役会、ならびに、監査機関としての監査役会という機関制度を基本として、執行役員制度により、事業・業務執行を推進する体制を基本的な考え方としています。

体制

ＹＫＫグループは、連結経営の一層の強化を図っていくため、ＹＫＫ ＡＰ・ＹＫＫファスニング事業本部等から事業執行責任者を取締役に選任し、ＹＫＫ取締役会を構成しています。

コーポレート・ガバナンス強化の観点ならびに当社の経営について幅広い見識と豊富な経験に基づく助言・監督をいただくことを目的として、社内取締役8名に加え、社外取締役2名を選任しています。

また、中核会社および世界6極地域経営の地域統括会社等の執行責任者の中から、グループ執行役員を選任しています。

さらに、社外の有識者から、経営全般および重要経営課題に関する助言を受けるため、アドバイザリーボードを設置しています。

なお、当社の監査役は4名で、うち3名が社外監査役です。

リスクマネジメント

リスクマネジメント方針

リスク水準を積極的にコントロールし、各種企業リスクを予防することによって、人的・物的・その他の経営資源の損失を低減もしくは回避し、有事においては被害ならびに損害を最小限にとどめるよう、グループ全体でリスクマネジメントを推進し、企業価値を向上させる。

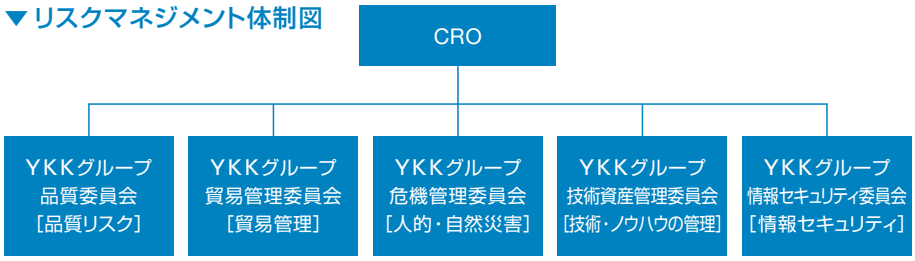
コーポレート・ガバナンス、リスクマネジメント、コンプライアンスの詳細情報は、ウェブサイト「企業の社会的責任」をご覧ください。
WEB https://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/csr/index.html

基本的な考え方・体制

YKKグループでは方針を定め、リスクマネジメントに取り組んでいます。推進にあたっては、CRO（最高リスクマネジメント責任者）を任命し、品質委員会、貿易管理委員会、危機管理委員会、技術資産管理委員会、情報セキュリティ委員会の各種委員会を設置し、規定の整備とその運用を図っています。

危機管理委員会が取り組むBCPに基づく訓練を国内外各拠点で定期的に実施

▼リスクマネジメント体制図



コンプライアンス

基本的な考え方・体制

YKKグループでは、コンプライアンスを「社会的要請への対応」と捉え、法令や社内規則の遵守はもとより、企業活動を行う上で求められる社会規範を遵守することであると考えます。

YKKは、コンプライアンス担当取締役を任命するとともに、コンプライアンス担当執行役員のもとに法務・コンプライアンスグループを設置し、社外アドバイザーと連携して、YKKグループのコンプライアンス体制の整備を図っています。これに加えて、事業経営の視点から適切なコンプライアンス推進活動を展開するため、コンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスの運用状況や課題への対応状況、最新法令動向について討議を行っています。

執行役員以上を対象にコンプライアンス研修を定期的に実施

YKKグローバルコンプライアンス基準（YGCC）

YKKグループは、透明性ある事業活動のために適切で効果的なコンプライアンスを確実に展開・実行することを目的に、「YKKグローバルコンプライアンス基準（YGCC）」を策定しています。YKKグループ各社がYGCCに基づき、人権、労働慣行、環境、安全衛生、公正な事業慣行において内・外部監査を実施し、コンプライアンス体制の強化と継続的な改善に努めています。

YKK精神に基づく企業の社会的責任

YKKグループは、YKK精神「善の巡環」、そして経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」の実践を通して、本業を通じた持続可能な社会への貢献に取り組んでいます。

基本的な考え方

YKKグループは、創業以来、“他人の利益を図らずして自らの繁栄はない”という思想に基づくYKK精神「善の巡環」を全事業を貫く精神的支柱としてきました。

この「善の巡環」の精神を根幹とし、経営理念である「更なるCORPORATE VALUEを求めて」のもと、「公正」を行動の基軸として、世界72カ国／地域で現地に根差した事業を展開しています。

企業市民としての社会的責任

私たちには、企業市民としての責任があり、公正な企業経営を実践していくためにも、この責任を真摯に受け止めています。今、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。国際社会においても文化や習慣、考え方などの多様性を尊重し、事業活動を通して社会の発展に貢献する責務があります。

YKKグループは、YKK精神「善の巡環」、そして経営理念「更なるCORPORATE VALUEを求めて」の実践を通して、これからも本業を通じて持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。

担当役員より

検討委員会の活動は5年目となり、第5次中期経営方針で掲げた目指す姿に向けて、領域ごとのテーマや課題に対する取り組みを着々と進めてきました。昨今、サステナビリティ推進への社会からの期待はこれまでになく高まっており、YKKグループとして事業戦略にサステナビリティを組み込み、実践していく新たなフェーズを迎えています。今後は、各ステークホルダーと会社側の意見をすり合わせながら活動を深化させ、より一層社会に貢献していくことに注力していきたいと考えています。YKK精神「善の巡環」を共通の基盤としながらも、各社の独自性を活かしたYKKグループらしい取り組みを進め、社会への新たな価値提供につなげていきます。

検討委員会委員長

YKK株式会社
副社長 経営管理担当
（兼）経営企画室長
本田 聡

推進体制

YKKグループでは、ISO26000の7つの中核主題を参照しながら、各領域の担当部門の活動をグループ横断的な目線で支援し、全体の活動をより詳細に把握するために、2014年4月より検討委員会を設置しています。

2018年度は、3回（6月、11月、3月）の委員会を開催し、各中核主題の活動進捗の共有を行うとともに、SDGsに関しても理解を深め、自社の具体的な貢献を考えるゲーム形式のワークショップも行いました。

テレビ会議で拠点をつなぎ、委員会を実施

活動目標と実績

ISO26000の中核主題別に「重点テーマと対応策」を定め、年度目標を設定した活動を推進しています。以下、2018年度の主な活動実績と今後の目標をご紹介します。

▼2018年度主な活動実績と2019年度活動目標

WEB 活動の詳細は https://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/csr/index.html をご覧ください。

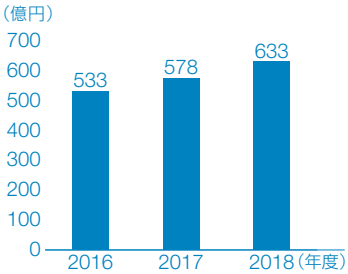
中核主題	重点テーマと対応策	2018年度主な活動実績	2019年度活動目標
組織統治	マネジメント体制の構築	• 検討委員会の継続開催（3回／年）	• 検討委員会の継続開催（3回／年）
人権	全社的な人権方針の浸透	• YGCC※2.0チェックリストの取りまとめと分析を実施 • 国際人事担当者会議およびアジア人事会議において、最新状況を各極人事担当者と共有	• 人権方針の見直し検討 • 人権・労働慣行に関するガバナンス体制の再整備（継続）
労働慣行	差別のない人材育成機会の提供	• YGCC※2.0チェックリストの取りまとめと分析を実施 • 人材育成機会の提供状況を確認 • 国際人事担当者会議およびアジア人事会議において、最新状況を各極人事担当者と共有	• 人材育成・教育訓練のモニタリング強化（継続） • 人権・労働慣行に関するガバナンス体制の再整備（継続）
	自ら考え行動する安全文化の醸成と重篤災害の撲滅	• 海外安全担当者に教育プログラムを試行	• 海外安全担当者教育プログラムの本格運用
		• グループ安全衛生基準（機械設計）の改訂・展開	• 機械導入時・更新時の安全審査システムの課題抽出・改善・展開（国内）
		• 安全管理特別指導実施（6拠点） • 労働災害情報管理システムの構築	• 安全管理特別指導を通じた継続的支援の実施 • 労働災害情報管理システムの運用・活用
環境	環境ガバナンスの強化	• グループ環境経営セルフチェックの実施 • 環境データベースの運用開始（入力率94%） • 環境長期ビジョンの策定	• セルフチェック結果の活用 • 環境データシステムの運用効率の向上 • 環境長期ビジョンの浸透に向けた環境プロモーションの作成・発信
	持続可能な調達と気候変動への適応	• 気候変動リスクを見据えた生産拠点における水リスク評価の実施	• 各拠点での水リスク把握の促進
公正な事業慣行	CSR調達の強化	〈日本〉 • CSRアンケートおよび取引先評価（107社へのフィードバック、3社の訪問調査） 〈海外〉 • 取引基本原則の収集（中国） • CSR調達の導入（アジア）	〈日本〉 • CSRアンケートおよび取引先評価継続 〈海外〉 • 取引基本原則の収集完了（中国） • CSR調達の拡大（アジア、EMEA）
消費者課題	トレーサビリティの強化（YKK）	• 購買リストに基づく材料検査体制の点検（現地点検実施8社）	• 材料検査体制の現地点検を継続
	有害化学物質削減の推進（YKK）	• 対象物質を含有する17材料中、8材料の代替完了	• 9材料の代替完了（全17材料完了）
	消費者の権利を守るための体制（YKK AP）	• 使い方&お手入れガイドブックの更新（16件）	• 使い方&お手入れガイドブックの更新（継続）
		• ウェブサイトを活用した事故情報の提供（1件）	• ウェブサイトでの情報提供の継続（事故未然防止の啓発）
	品質維持のための情報提供につながるトレーサビリティの強化（YKK AP）	• お客様からのお問い合わせ対応、および検討会による課題抽出実施（12回／年）	• お客様からのお問い合わせ対応、および「お客様の声共有会」実施
		• 経済産業省製品安全コミュニティへの参加 • （一社）日本サッシ協会「サッシ、ドア等の警告表示に関するガイドライン」改定版発行	• 経済産業省製品安全コミュニティへの参加（継続） • （一社）日本サッシ協会CS管理部会への継続参画
	ライフサイクル全体や3Rに配慮した商品の開発・普及（YKK AP）	• 海外アワード受賞（3件） • ビル用アルミウインドウ商品のエコリーフ認定取得・公開	• エコリーフ認定商品の拡大と活用（1件以上）
コミュニティー参画	経営トップによるステークホルダー・ダイアログの強化	• 経営トップとステークホルダーとの対話実施（1回）	• 経営トップとステークホルダーとの対話実施（継続）
	「企業の社会的責任」に関する外部への情報開示の強化	• CSR／環境リリース配信（11件） • 個別取材対応（7回） • ウェブサイトでの情報発信の強化	• サステナビリティに関するリリース配信（8件） • 個別取材対応（8回） • ウェブサイトでのサステナビリティ情報発信の強化

※YGCC = YKK Global Criteria of Compliance（YKKグローバルコンプライアンス基準）

各極の取り組み

北中米

▼極別売上高推移



2018年度　主な取り組み

- ►社員の高等教育を支援（テープ・クラフト社）
- ►“2018 Top Workplaces in Atlanta”に選出（YKK APアメリカ社）
- ►社員の健康増進への取り組み（北中米極全社）

地域の人々とともに歩む、各地に根を下ろした活動

YKK初の海外拠点が誕生したのは1959年のこと。創業者吉田忠雄は、海外で働く心得として、「その国の風俗、習慣、伝統というものを尊重して自分はこの国に生まれたんだと思え」と説いていました。この「土地っ子になれ」の教えにならい、地域に根差した事業を展開して地域社会の発展に貢献すべく努めてきました。北中米極では、2018年にYKKカナダ社が設立50年を迎えました。式典では地元のサンローラン市市長をはじめさまざまなステークホルダーの皆さまをお招きして節目を祝い、地域社会とともに歩んできた歴史を振り返りました。

また、周辺の自然環境保護にも積極的に取り組んでおり、毎年6月5日の世界環境デーに合わせて世界各地で植樹を行う「YKK Group Tree Planting Day」を2008年よりYKKグループ各社で実施。今後も地域の人々と手を取り合い、持続可能な社会の実現を目指していきます。

式典当日には、YKKカナダ社工場内に新設された商品開発室のオープニングセレモニーも開催

ハリケーンで被災した施設の修復支援

2017年夏、アメリカ・テキサス州南部を中心に甚大な被害をもたらした大型ハリケーン・ハービー。長年、ヒューストンで困難な状況にある女性たちとその家族を支えてきた治療施設「サンタマリア・ホステル」も大きな被害を受けました。2018年10月、NGO団体AEC Caresが同施設の修復と環境改善のプロジェクトを開始し、YKK APアメリカ社もこれに協力しました。このプロジェクトには建築、エンジニアリング、建設業界から150名以上のボランティアが集まり、屋内の改装や新しい庭園の整備など、施設を大幅に改善。YKK APアメリカ社はセンターの新しい歩道の建設を中心に支援しました。これからも、YKK精神「善の巡環」に基づき、本業を通じた社会への貢献を続けていきます。

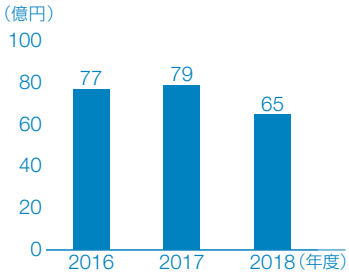
プロジェクトに参加したYKK APアメリカ社の社員たち

Sustainable Apparel Coalition

アパレル業界の国際サステナビリティ団体Sustainable Apparel Coalition（SAC）に加盟

南米

▼極別売上高推移



2018年度　主な取り組み

- ►リーダー育成プログラムの実施
- ►模倣品撲滅の取り組み
- ►国連「差別ゼロデー」に合わせた人権啓発キャンペーン（以上、南米極全社）

地域経済の発展に寄与するこだわりのコーヒー豆

YKKがファスナー事業でブラジルに進出した1972年は、第一次オイルショックの影響でインフレが急加速し、貧困層が急激に増大していました。この状況を考慮し、地域社会に貢献するために、現地で得た利益を再投資して1985年にYKK農牧社を設立、コーヒー事業を開始しました。「衣」「住」に続く「食」の分野への進出が企業経営の基本であると唱えた創業者吉田忠雄の想いがその背景にあります。コーヒー生産の現場では、その地域の人々を雇用し、職業訓練を通じた人材育成や技術の伝承を行うことで、地域経済の発展に寄与してきました。

2017年にボンフィノポリス市市長を表敬訪問した際、「YKKのおかげでこの地にコーヒー産業が根付き、近代化も進んで地域全体が発展できた。これからもボンフィノポリスのコーヒーを世界に広めてください」との激励をいただきました。自家焙煎で提供する「カフェ・ボンフィーノ（Café Bonfino）」は日本でも展開しています。国境を越えて、上質で香り高いYKKのコーヒーを皆様にお届けしています。

収穫したコーヒー豆を前に

コミュニティ菜園で人々の健康的な生活に貢献

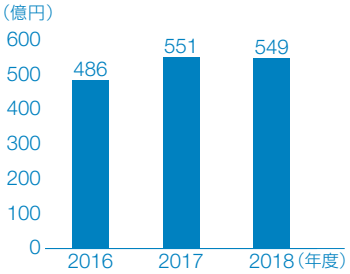
長年、深刻な貧困問題を抱えるアルゼンチンでは、野菜の自家生産を促し、栄養改善を支援するプロジェクトが国内各地で行われてきました。YKKアルゼンチン社の工場があるブエノスアイレス州ピラールでも、2016年からコミュニティマーケット菜園プロジェクトが展開されており、同社も参加しています。このプロジェクトは、菜園で収穫した新鮮な作物を学校や老人ホーム、協同組合などに提供し、栄養バランスのとれた食事を支援するだけでなく、参加者のトレーニング等を通じて食料の自家生産を促進し、地域全体の健康的な食生活を実現しようとするものです。現在、約5,800人の住民が恩恵を受けています。YKKアルゼンチン社は、幼稚園の菜園づくりを支援したことで、ピラールの環境局から感謝状を受け取りました。今後もコミュニティの一員として、人々の健康的な生活を支える緑豊かな環境づくりに貢献していきます。

YKKアルゼンチン社では菜園づくりを支援

各極の取り組み

EMEA
（ヨーロッパ・中東・アフリカ）

▼極別売上高推移



2018年度　主な取り組み

- ▶地域の学校のリノベーション支援（YKKチュニジア製造会社）
- ▶奨学金による若者の教育支援（YKKサザン・アフリカ社）
- ▶労働災害が少ない企業としてMC Mutual's Baro Awardを受賞（YKKスペイン社）

事業を通じたさまざまな支援で広がるパートナーシップ

EMEA極では、1964年のYKKオランダ社設立以来50年以上にわたり、アパレルをはじめとする多様な分野へのファスニング商品の提供に努めてきました。近年は持続可能な社会実現に向けて、社会問題の解決にも積極的に取り組み、「It's not just a zip」のスローガンを掲げて、さまざまな支援活動と情報発信を行っています。

IT'S NOT JUST A ZIP™
notjustazip
notjustazip.ykkeurope.com

また、各国／地域のYKKでは、ファッションを学ぶ学生の支援にも取り組んでおり、2018年にはスペイン北西部にあるFormateデザイン学校のファッションショーに協賛しました。その他、CNMI※を通じて産学連携のプロジェクトにも参画し、学生を対象とした「MILANO MODA GRADUATE 2018」では、特別賞としてYKKアワードを贈呈しました。今後も、才能ある学生たちが自由な発想を発揮できる環境づくりに貢献していきます。

「MILANO MODA GRADUATE 2018」の様子

※Camera Nazionale della Moda Italiana／イタリアファッション協会。ミラノコレクションを主催。

GERMAN DESIGN AWARD WINNER 2019

「Excella® Fin」が、「ドイツ・デザイン賞2019」を受賞

エジプトでストリートチルドレンの自立支援

エジプトの都市部では、貧困や虐待など、さまざまな事情により路上生活を余儀なくされている子どもたちが多く存在します。国際NGOが運営するストリートチルドレンの一時避難施設「カリタス・エジプト」は、子どもたちが家庭に戻り、社会復帰することの支援を目的に、食事の提供や、アートやアクセサリー制作、サッカーなどさまざまな活動を行っています。

2018年、YKKエジプト社はこの施設に国際協力機構（JICA）を通してファスナーを提供、子どもたちはファスナーを使ってポーチや財布を制作し、商品としてイベントで販売しました。

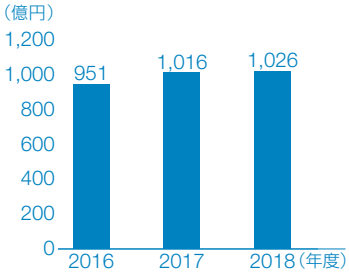
YKKのファスナーが、子どもたちと社会をつなぐパーツとしても役立つことを願って、今後も支援内容を検討し、実施していきます。

「カリタス・エジプト」

子どもたちの絵を刺しゅうした制作中のポーチ

中国

▼極別売上高推移



2018年度　主な取り組み

- ►専門学校と人材育成活動を共催（YKK AP蘇州社）
- ►浦東新区企業社会責任（CSR合格企業）再認定（YKK中国投資社）
- ►ドラゴンボートレースなどの行事参加による地域振興貢献（中国極各社）

お客様や行政機関とともに模倣品撲滅に取り組む

さまざまな業界で模倣品の被害が増える中、YKKは世界の市場に出回るYKKファスナーの模倣品や、それを使用した商品の排除に取り組んでいます。模倣品は商品の安全性が確保されておらず、市場が拡大することでYKKのブランド価値を損ねるだけでなく、YKK商品をご使用いただいているお客様のブランド価値低下にもつながりかねません。個別企業での模倣品対策は難しいため、お客様や業界団体を含む関係企業、行政機関との協働により、ブランドを守るためのB.P.P.（Brand Protection Partnership）活動を推進しています。

模倣品被害がいまだ報告される中国では、YKKファスナーの模倣品を製造・販売する業者に対し行政機関と連携した取り締りに引き続き注力しています。近年、お客様の中国拠点と連携した取り組みを強化しているほか、東南アジアでも活動を展開しています。

ブランド保護を啓発する広告

魅力ある製品で、中国市場で評価される建材ブランドに

「LD65T」断面

※寒冷地域から夏暑冬暖地域までの幅広い中国の気候条件で求められる断熱性能要求に応えた高性能のアルミ形材断熱商品

YKK APが中国事業をスタートさせたのは2001年。以来、一貫生産にこだわり、成長著しい中国市場が求める新たな製品づくりに取り組んできました。2018年、同社は中国で2つのブランド表彰を受けました。中国金属構造協会が主催する第3回建築門窓カーテンウォール業界「金軒賞」の「もっとも創造力がある門窓カーテンウォールシステム」を、高性能のアルミ形材断熱商品「LD65T」※が受賞。また、中国不動産協会トップ500社が選ぶ「採用したい建材ブランド（門窓）」では、華東地域で1位、華南地域で2位に選出されました。「金軒賞」は2回目の受賞、「採用したい建材ブランド」での1位獲得は2年連続で、2011年の初選出以降6回目の受賞となります。今後も、中国のお客様の要望に応える商品とサービスの提供に努めていきます。

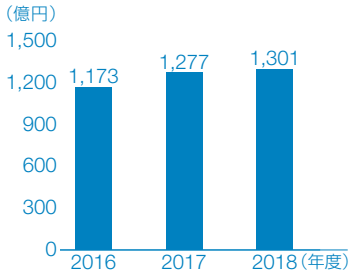
各賞の詳細は、ニュースリリースをご覧ください。
WEB https://www.ykkap.co.jp/company/japanese/news/detail.html?s=20181126

金軒賞表彰式の様子

「Fenestration Bau China 2018」YKK APブース内の「LD65T」展示コーナー

アジア

▼極別売上高推移



2018年度　主な取り組み

- ▶地域コミュニティと協働して「ごみ銀行」を開設（YKK APインドネシア社）
- ▶ビヌス・ノーザンブリアデザイン学校との提携（YKKインドネシア社）
- ▶第4回アジア人材育成プログラムの実施

地域が抱える課題と向き合い、ともに発展する

目覚ましい経済発展が注目されているインドですが、識字率や就学率はまだ高いとは言えず、特に若い女性においては職を得て自立することの難しさが社会問題となっています。YKKインド社は2007年、近隣の発展途上地域の若い女性の知識向上と経済的自立を促すことを目的とした職業訓練センターを敷地内に設立。英語やパソコンなどの基本的なスキル習得のほか、実務プログラムには、ミシンの使い方やステッチング、刺しゅうなど、アパレル産業が盛んなインドの縫製工場で就職することも可能にする内容も設けました。設立から11年を迎える2018年度末現在で、累計169名のプログラム修了者を輩出し、若い女性の経済的自立を支援してきました。YKKインド社では今後も地域に寄り添いながら、ともに発展するために地域の課題解決に継続的に取り組んでいきます。

2018年度のプログラム修了者

新たな研究開発拠点で、蒸暑地域の社会課題の解決に取り組む

湿度と気温が高い「蒸暑地域」と呼ばれる東南アジア地域。快適な住環境を実現するためには、現地の気候風土や建築事情に合った窓の開発が求められます。YKK APは、蒸暑地域の居住環境に貢献する窓の研究開発拠点として「YKK AP R&Dセンター（インドネシア）」を2018年8月に開設しました。開所式には多くのご来賓や関係者など約100名に出席いただき、「産・官・学」連携の取り組みに対し大きな期待が寄せられました。

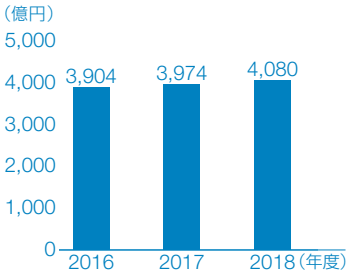
YKK APにおいて世界で3つ目の研究開発拠点となる同センター。東南アジアを中心とした蒸暑地域の気候風土・建築に適した開口部の開発や、最低限のエネルギーで快適な住環境を設計するためのパッシブデザインを研究し、近年温暖化が進む世界の社会課題の解決に貢献できる窓を開発していきます。

子どもたちの学びと健やかな成長をサポートする「キッズフットボールクリニック」は2007年より継続開催
WEB https://www.youtube.com/user/YKKASAO

YKK AP R&Dセンター（インドネシア）

日本

▼極別売上高推移



2018年度　主な取り組み

- ►「パッシブタウン」第3街区K棟が「2017 LEED Homes Awardsの Winner」を日本初受賞
- ►富山県「県民ふるさと大賞」受賞（YKK）
- ►前沢ガーデン 桜花園開園10周年

使いやすく、楽しみのある「ユニバーサルファッション」を提案

ファスニング商品は通常、両手が使える場合は操作がスムーズですが、手がふさがっていたり、手が不自由な方にとっては使いにくい状況を生んでいました。そこで、商品そのものの使いやすさに加えて、アパレルやかばんとしての使いやすさ、またファッションとしての楽しさを追求するために、「ユニバーサルデザインファッション座談会」※を開催。YKKのユニバーサルデザイン商品を使ったアイデアや有用性についてディスカッションしました。座談会を踏まえて創造された新しいファッションは「YKK FASTENING CREATION for 2019」の会場で展示し、来場者の高い関心を集めました。今後もこうした試みを通じ、これまでになかったシナジーを生み出し、障がいの有無や年齢にかかわらず、あらゆる人たちにとって有益な機能性を備えたユニバーサルデザイン商品の開発に取り組んでいきます。

ユニバーサルファッション

「click-TRAK®」
スナップボタンのような開具をクリックすることでより簡単に閉操作ができ、高齢者や手の不自由な方にも使いやすい工夫を施したファスナー

※障がいを持つ方、デザイナー、作業療法士の方々にご参加いただいた座談会の詳細は、下記をご参照ください。
WEB https://www.ykk.co.jp/japanese/corporate/g_news/2018/20180920.html

第22回「環境経営度調査」製造業総合ランキング
（主催：日本経済新聞社）

9位

エコハウスづくりで、幅広い層へ“窓の重要性”を伝える

YKK APでは、生活者に「窓」をより身近に感じていただき、「窓」で生活環境が快適になることを知ってもらう取り組みとして、親子ワークショップ「窓から考えるエコハウスづくり」を日本各地で開催しています。このイベントは、学びや工作を通じて、“夏涼しい家”“冬暖かい家”のポイントや、自然を活かして快適でエコに過ごすための工夫に気付くことができる、当社のオリジナルプログラムです。

2018年度はショールームやMADOショップでの開催に加え、自治体との共催も実現。子どもから大人まで幅広い層に自然環境と住まいの付き合い方や、“窓の重要性”を伝える良い機会になると考え、今後も活動を推進していきます。

子どもたちがつくったエコハウス

兵庫県宝塚市で開催したワークショップの様子

ＹＫＫグループ概要

ファスニング事業

国内

ＹＫＫ(株)
ＹＫＫスナップファスナー(株)

海外

ＹＫＫ U.S.A.社
テープ･クラフト社
ＹＫＫカナダ社
ＹＫＫメキシコ社
ＹＫＫスナップファスナー製造メキシコ社
ＹＫＫホンジュラス社
ＹＫＫエルサルバドル社
ＹＫＫコロンビア社
ＹＫＫブラジル社
吉田ノルデステ社
ＹＫＫチリ社
ＹＫＫアルゼンチン社
ＹＫＫオランダ社
ＹＫＫ英国社
ニュージッパー社
ＹＫＫロシア社
ＹＫＫデンマーク社
ＹＫＫドイツ社
ダイナート社
ＹＫＫシュトッコ･ファスナーズ社
ＹＫＫポーランド社
ＹＫＫフランス社
ＹＫＫチェコ社
ＹＫＫオーストリア社
ＹＫＫルーマニア社
ＹＫＫイタリア社
ＹＫＫメディテラネオ社
ＹＫＫスペイン社
ＹＫＫポルトガル社
ＹＫＫギリシャ社
ＹＫＫトルコ社
ＹＫＫ中東社
ＹＫＫモロッコ社
ＹＫＫトレーディング・チュニジア社
ＹＫＫチュニジア製造会社
ＹＫＫエジプト社
ＹＫＫケニア社
ＹＫＫサザン･アフリカ社
上海ＹＫＫジッパー社
上海ＹＫＫトレーディング社
大連ＹＫＫジッパー社
ＹＫＫ深圳社
ＹＫＫ深圳トレーディング社
ＹＫＫスナップファスナー無錫社
ＹＫＫ廈門トレーディング社
ＹＫＫ香港社
ＹＫＫスナップファスナーアジア社
ＹＫＫ韓国社
ＹＫＫパキスタン社
ＹＫＫインド社
ＹＫＫバングラデシュ社
ＹＫＫ台湾社
ＹＫＫベトナム社
ＹＫＫタイ社
ＹＫＫフィリピン社
ＹＫＫスリランカ社
ＹＫＫマレーシア社
ＹＫＫインドネシア社
ＹＫＫジプコ・インドネシア社
ＹＫＫオセアニア社

AP事業

国内

YKK AP(株)
(株)YKK AP沖縄
(株)プロス
(株)イワブチ
(株)ラクシー

海外

YKK AP FACADE社
YKK AP FACADEシンガポール社
YKK AP FACADEベトナム社
YKK APアメリカ社
YKK中国投資社 AP事業部
YKK AP大連社
YKK AP深圳社
YKK AP蘇州社
YKK AP上海社
YKK AP香港社
YKK台湾社 AP事業部
YKK APインドネシア社
YKK APマレーシア社
YKK APタイ社
ボルーカ社

その他

国内

YKK不動産(株)
YKKビジネスサポート(株)
(株)YKKツーリスト
(株)カフェ・ボンフィーノ
黒部エムテック(株)
黒部クリーンアンドグリーンサービス(株)
(株)エッセン
黒部モビリティサービス(株)
YKK六甲(株)

海外

YKKコーポレーション・オブ・アメリカ
YKKインシュランスカンパニー・オブ・アメリカ
YKK農牧社
YKKホールディング・ヨーロッパ社
YKKヨーロッパ社
YKK中国投資社
蘇州YKK工機会社
YKKホールディング・アジア社
YKKディベロップメント・シンガポール社
ゴールデン・ヒル・タワー社
YKKアルミニウム・オーストラリア社
YKK GPSクイーンズランド社

YKK株式会社

創業　1934(昭和9)年1月1日
資本金　119億9,240万5百円 (2019年3月31日現在)

YKKグループ

グローバル体制　72カ国／地域　108社(国内19社／海外89社) 2019年3月31日現在
従業員　46,167名(国内17,671名／海外28,496名) 2019年3月31日現在
連結売上高　7,657億円(ファスニング 3,328億円／AP 4,280億円 他)
※2018年度実績に基づく

YKK株式会社

https://www.ykk.co.jp

Printed in Japan 2019-09